取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

CROWN

TABLE OF CONTENTS
目次

ナビゲーションシステムを装着された方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

TABLE OF CONTENTS | 目次

3 室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

さくいん

外観

ドアミラー P. 81
ワイパー P. 174
ヘッドライト（ハイビーム）P. 169
ヘッドライト（ロービーム）P. 169
ボンネット P. 315
方向指示灯 P. 155
BTS00BF7001
フロントフォグライト P. 172
車幅灯 P. 169
方向指示灯 P. 155

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロント席

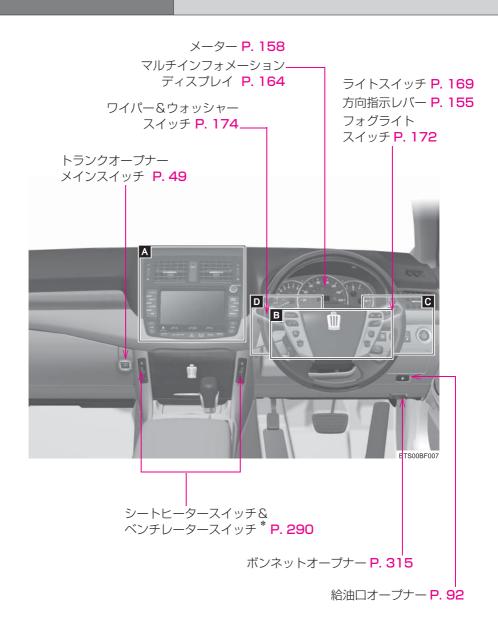
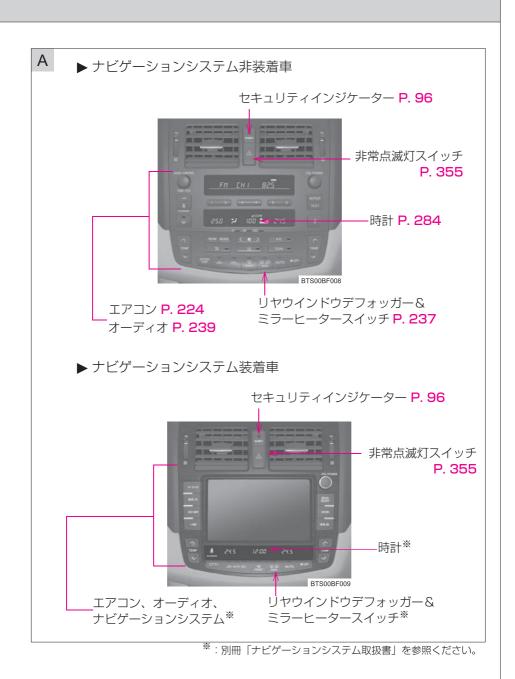
助手席SRSエアバッグ P. 108
SRSニーエアバッグ P. 108
運転席SRSエアバッグ P. 108
ヘッドレスト P. 65
シートベルト P. 68
A
B
C
BTS00BF003
フロントシート P. 55
SRSサイドエアバッグ P. 108
グローブボックス P. 274
コンソールボックス P. 275
アクセサリーソケット P. 288
USB端子＊※

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

B

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

C

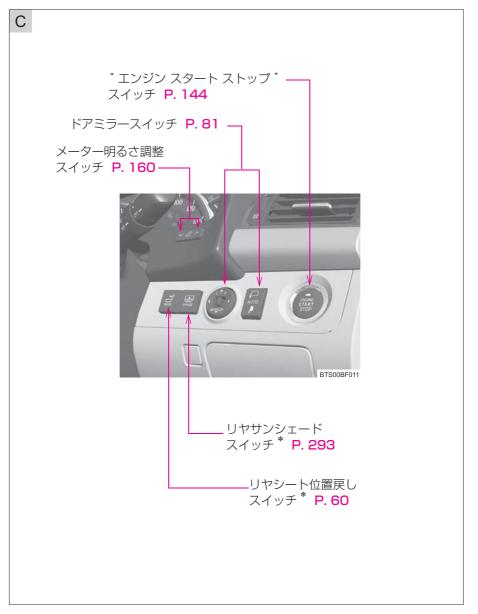
シフトレバー P. 150
カップホルダー P. 276
BTS00BF006
VSC OFF スイッチ P. 196
モードセレクトスイッチ P. 151

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A

▶ ナビゲーションシステム非装着車

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

B

DISP スイッチ P. 165

オーディオ操作スイッチ P. 262

電話スイッチ※

BTS00BF010

LKA スイッチ* P. 189

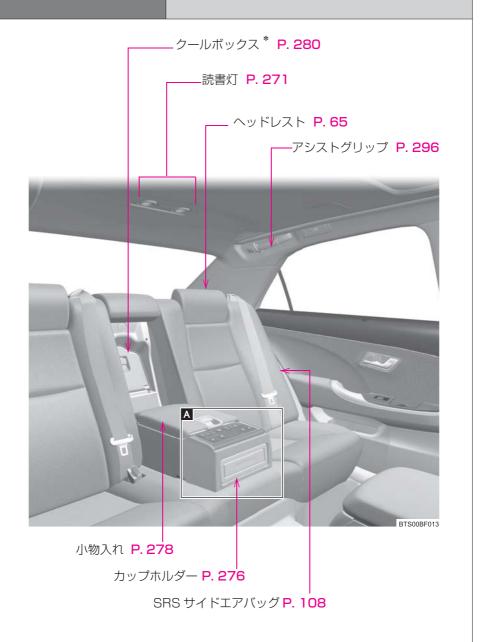
カメラスイッチ※

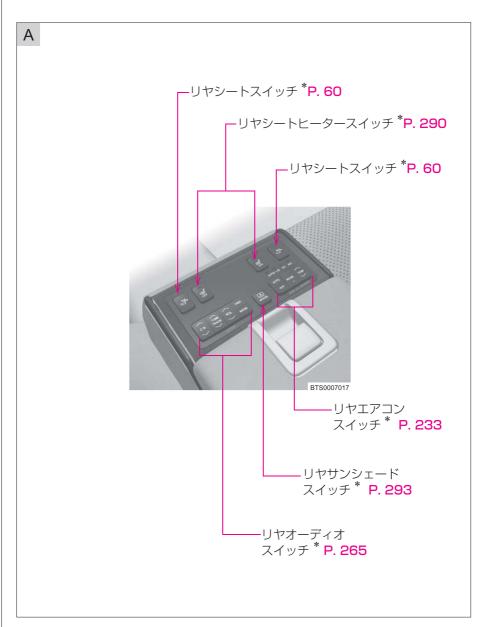
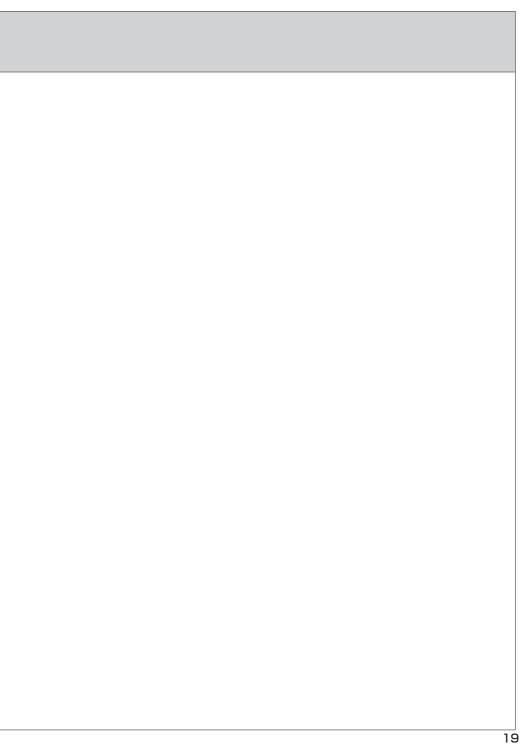
車間距離切り替えスイッチ* P. 182

レーダークルーズコントロールスイッチ* P. 180

トークスイッチ※

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

リヤ席

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤ席

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけ方などをまとめた「チャイルドシートの取りつけ」(→P. 126)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

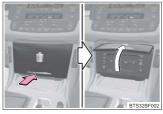
警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

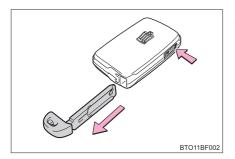
キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

1 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 29）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 41）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー＊

1 電子キー

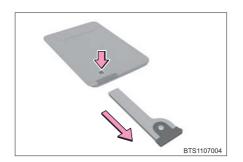
スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 29）

2 メカニカルキー

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

メカニカルキーを使うには

BTO11BF002

BTS1107004

メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 399）

知識

■カードキーについて

●カード内蔵のメカニカルキーはカードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

BTS1107005

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

BTS1107006

●電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をクラウンエンブレム面側にして取りつけてください。

●カードキーは非防水です。

■駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 398）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

電子キーは精密機器です。以下のことをお守りください。

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取りつけたり、近づけたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

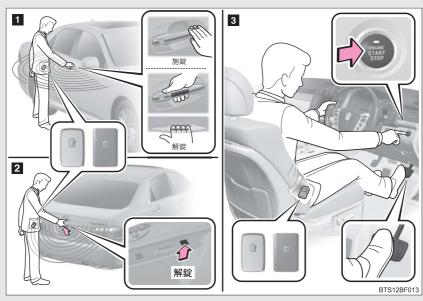
●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは

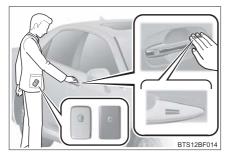
電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内だと電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは

車両に付属している全ての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

注意

■**キーを紛失したときは**

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーを全てお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

■**カードキー取り扱いの注意**

●メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が錆びた場合は、トヨタ販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。

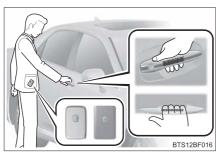
●電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取りつけるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

スマートエントリー&スタートシステム

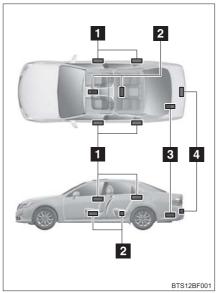
電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯するだけで以下の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアの施錠・解錠　（→P. 30）
2 トランクの解錠　（→P. 30）
3 エンジンの始動　（→P. 144）

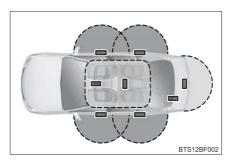
ドアの施錠・解錠

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）に触れ施錠する

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

トランクを開ける

スイッチを押す

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
3 トランク内アンテナ
4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅（施錠は 1 回、解錠は 2 回）で知らせます。
（トランク解錠時を除く）

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部に触れても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時に触れてください。

■解錠ドアの切り替え機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。切り替えの操作は車両から 1m 以内で行ってください。(カードキーでは解錠ドアの切り替えはできません)

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする。

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。（操作中のオートアラームの誤操作防止）（→P. 99）

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、 ボタンと同時に または のいずれかを約５秒押し続ける。

操作を行うごとに次の表のように設定が切り替ります。（続けて切り替え操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと、５秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください。）

マルチインフォメーションディスプレイ	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける。

ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P. 97）

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●以下の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
・5 日間以上スマートエントリー ＆ スタートシステムを使用しなかった。

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 年半程度で消耗します。）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 382）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。以下のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・テレビ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話やその充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

必ず電子キーを携帯した上でスマートエントリー＆スタートシステムを作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

●車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（ 誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります。）

●電子キーが作動範囲内にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠、解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている場合

■スマートエントリー＆スタートシステム特有の留意事項

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合に洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室内または車に近い位置にある場合にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できない場合は、ワイヤレスリモコンを使って解錠してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーに触れた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーに触れてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください (キーの盗難に注意してください)。

●車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、「車室内にキーがあります」という警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車室外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報・ブザーは停止します。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷つけたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 420)

■解錠操作時のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 370)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■車両バッテリー脱着時の留意事項

●車両バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、または メカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●車両バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFFにしてから行ってください。
バッテリー脱着前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠、解錠：→P. 399

●エンジン始動：→P. 400

■電池が切れたときは

→P. 344

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

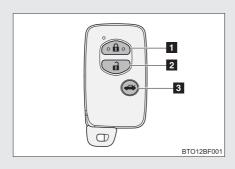
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にした場合のドアの施錠・解錠、エンジンの始動方法等は「電子キーが正常に働かないときは」（→ P. 399）を参照してください。

警告

■**電波がおよぼす影響についての警告**

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P. 31）から 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくは販売店にご相談ください。

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 399）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器が電子キーの近くにあるとき

●電子キーが以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やカバン
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、以下のような製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA 等）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

3 トランク解錠（長押し）

ワイヤレスリモコンでドアガラス・ムーンルーフの開閉を実施することができます。詳しくは販売店にご相談ください。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 97）

■電池の消耗について

→P. 34

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 37

■電池が切れたときは

→P. 344

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 40

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

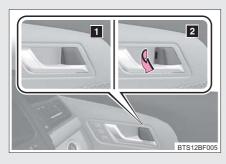
ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 30

■ ワイヤレス機能

→P. 41

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

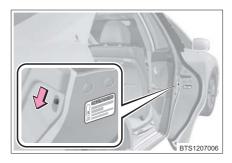
2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする。

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

BTS1207006

施錠側にすると、リヤドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤドアを開けないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーをＰから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーをＰに入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

▶ ナビゲーションシステム非装着車

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 全てのドアを閉め、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

シフトレバーを P または N にいれ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す。

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	🔒
シフト連動オートアンロック		🔓
車速感応オートロック	N	🔒
運転席ドア連動オートアンロック		🔓

設定または解除の切り替え操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。

▶ ナビゲーションシステム装着車

設定の変更は、ナビゲーションシステムの画面で行います。（→P. 420）

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■イージークローザー（イージークローザー装着車）

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、ドアが自動で完全に閉まります。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

●イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

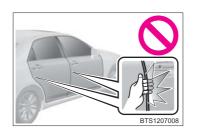
●シートベルトを必ず使用する

●全てのドアを施錠する

●全てのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

注意

■オートドアロック・アンロック機能の切り替えについて（ナビゲーションシステム非装着車）

設定または解除の切り替え操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。施錠・解錠の作動がない場合、切り替えられていない場合があります。

警告

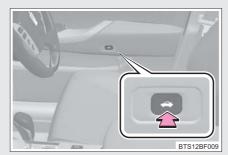
■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■イージークローザーについて（イージークローザー装着車）

BTS1207008

- ドアが半ドア状態のときイージークローザーが働き自動的に閉まるため、指などを挟まないように十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまで数秒かかります。指などをドアの隙間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターレバーが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、とくにご注意ください。

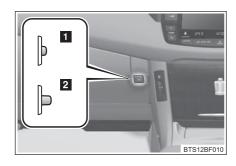
注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

頻繁にドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ トランクオープナー

BTS12BF009

スイッチを押す

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 30

■ ワイヤレスリモコン

→P. 41

トランクオープナーを使用できなくするには

BTS12BF010

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

1 ON

2 OFF

ワイヤレスリモコン、スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■トランクグリップ

BTS12BF011

トランクを引き下げるときにお使いください。

■トランクライト

トランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。

■イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動しないときには、トランクをいったん半分以上開けてから、再度閉めてください。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

●全てのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合トランクオープンスイッチ（車外）で開けられます。

●全てのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ず全ての電子キーを携帯してください。

●全てのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■バッテリーあがりを防ぐために

トランクが開いた状態でトランクライトが点灯したままの場合、約 30 分後に自動消灯します。

警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■イージークローザーについて

BTS12BF012

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■トランク内のフラットケーブルについて

BTS12BF018

トランク内左側にあるフラットケーブルを持ってトランクを閉めたり、フラットケーブルにハンガーなどをかけたりしないでください。フラットケーブルの中にある配線が断線して、車両が故障するおそれがあります。

フロントシート

▶ パワーシート装着車

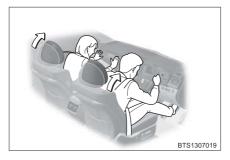
1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）

4 シート全体の上下調整（運転席のみ）

5 ヘッドレストの上下調整 *（→P. 65）

6 腰部硬さ調整（運転席のみ）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

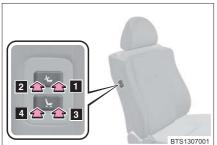
▶ マニュアルシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整
（運転席のみ）

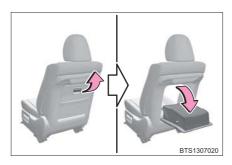
4 シート全体の上下調整
（運転席のみ）

5 腰部硬さ調整
（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車、オットマン機能付シートを除く）

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

助手席側面スイッチ*

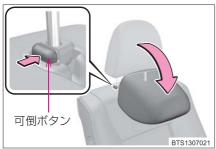
運転席またはリヤ席から助手席を操作できます。

BTS1307001

1 リクライニング起こす
2 リクライニング倒す
3 前後位置前方
4 前後位置後方

オットマン機能付シート*

助手席の背もたれ、ヘッドレストをお好みの状態にすることができます。

■ オットマンシート

BTS1307020

レバーを引き上げ、背もたれの中央部を後方へ倒します。

リヤ席、助手席はお好みの位置に調整してください。

■ 可倒式ヘッドレスト

BTS1307021

ヘッドレストをいちばん上まで引き上げたあと、可倒ボタンを押して、さらに引き上げ、ヘッドレストを前に倒します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

■助手席側面スイッチについて

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■可倒式ヘッドレストについて

ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを引き起こして正しい位置に調整してください。

■オットマンシートについて

リヤ席、助手席をお好みの位置に調整するときに、手や足を挟まないよう注意してください。

⚠ 注意

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■シート肩口スピーカー装着車について

スピーカーグリル部にジュースなどをこぼしたり、シートクリーナーや消臭剤などを吹きつけたりしないでください。オーディオの音質の劣化の原因となるおそれがあります。

リヤシート

リクライニング調整*

フロント席からリヤシートをもどす*

ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へもどります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

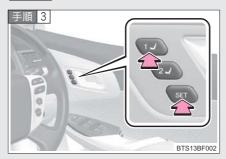
警告

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■フロント席からリヤシートをもどすときは

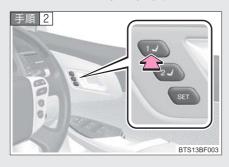
リヤシートの乗員が車をおりてから操作してください。

マイコンプリセットドライビングポジションシステム*

お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度*）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。（メモリーコール機能）
ドライビングポジションは 2 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 運転席、ハンドル、ドアミラー角度*を好みの位置に調整する。

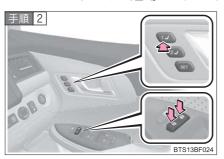
手順 3

SET ボタンを押しながら、またはSETボタンを押したあと３秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2

1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（メモリーコール機能）

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯し、シフトレバーを P にして運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにし、連動させたいポジションを呼び出す。

手順 2

呼び出したポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

解除させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにします。

手順 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

■乗車前に呼び出すには

運転席ドアを開け、180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと調整されます。

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

以下のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 または 2 のボタンを押す

●シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■パワーイージーアクセスシステムについて（→P. 74）

登録した運転席の位置に対して、車両カスタマイズ機能（→P. 420）で設定した移動量だけ、シートが後方に移動します。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルで圧迫されたりしないよう注意してください。

注意

■メモリーコール機能を登録するときに

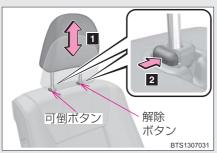
手順 2（→P. 63）のブザーが鳴ったら、ドアロックスイッチから手を離してください。そのままドアロックスイッチを押し続けると、オートドアロック・アンロック機能（→P. 44）が切り替わる場合があります。

ヘッドレスト

■ 上下調整

▶ 電動式

スイッチを上下に操作します。

▶ 手動式（オットマンシート非装着車）

1 上下調整

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

2 取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

▶ 手動式（オットマンシート装着車）

1 上下調整

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

2 取りはずし

可倒ボタンを押したままいちばん上まで持ち上げ、解除ボタンを押しながら取りはずします。

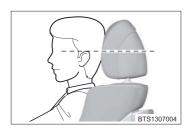
■ 前後調整（フロント席）

ヘッドレストをつかみ、前後に調整します。

知識

■電動式ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし、取りつけについてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストの使用について

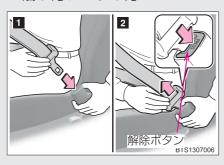
使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。
また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

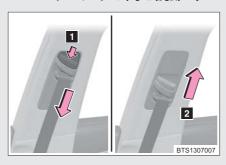
BTS1307005

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

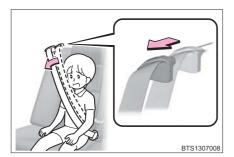
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

BTS1307006

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

BTS1307007

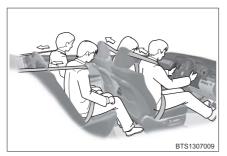
1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）

肩部ベルトが首の近くにかかるときは、コンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを巻き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロント席）

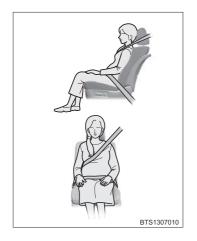
プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き込み、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 202)

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 68)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 117)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 68)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝突を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる

●シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

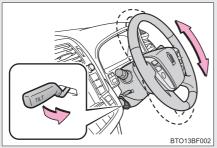
■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

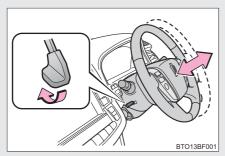
●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

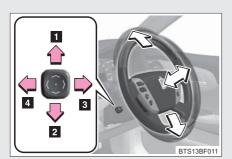
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■プリクラッシュシートベルトについて

プリクラッシュシートベルトを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。

ハンドル

▶ マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

■ 上下位置調整

チルトステアリングレバーを手前に引き、ハンドルを上下に動かして適切な位置にして、レバーから手を離す

■ 前後位置調整

テレスコピックステアリングレバーを押し下げ、ハンドルを前後に動かして適切な位置にして、レバーを引き上げる

▶ 電動チルト＆テレスコピックステアリング

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

1 上がる

2 下がる

3 手前に動く

4 前方に動く

オートチルトアウェイ＆リターン機能（マイコンプリセットドライビングポジションシステム装着車を除く）

BTS13BF012

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが最上段、最前方に移動します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

パワーイージーアクセスシステム（マイコンプリセットドライビングポジションシステム装着車）

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席シートが自動で、以下のように動きます。

BTS13BF030

降車時：ハンドルが最上段、最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：ハンドル、運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※ハンドルの上下前後位置、運転席シートの前後位置をお好みの位置に調整しておけば、ハンドル・シートがその位置で記憶されます。

知識

■電動チルト&テレスコピックステアリングの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステム*に登録すると、自動で調整されます。(→P. 62)

■電動チルト&テレスコピックステアリングのハンドル位置調整について

パワーイージーアクセスシステム装着車では、車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF でも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整することができます。

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について(パワーイージーアクセスシステム装着車)

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■オートアウェイ機能の作動条件（パワーイージーアクセスシステム装着車）

●以下の条件を満たすと作動します。

・シフトレバーを P にする
・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
・シートベルトのバックルをはずす
（車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に以下の操作をすると作動が停止します。

・シフトレバーを操作する

●作動中に以下の操作をするとシートの作動のみが停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 55）のいずれかを操作する
・SET ボタン（→P. 62）を押す
・1 または 2 のボタン（→P. 62）を押す

■オートリターン機能の作動条件（パワーイージーアクセスシステム装着車）

●以下の条件のいずれかを行うと作動します。

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
・シートベルトのバックルを装着する
（車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に以下の操作をすると作動が停止します。

・SET ボタン（→P. 62）を押す
・1 または 2 のボタン（→P. 62）を押す

●作動中に以下のいずれかを行うとシートの作動のみが停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 55）のいずれかを操作する
・車両を発進させる

●作動中に以下のスイッチを操作するとハンドルの作動のみが停止します。

・電動チルト＆テレスコピックステアリングのスイッチ（→P. 73）を操作する

■パワーイージーアクセスシステムでのハンドル、シートの作動について

●オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 55）のいずれかを操作、またはマイコンプリセットドライビングポジションシステム（→P. 62）の操作をした場合、オートリターン機能は作動しません。

●エンジン始動時にハンドル、シートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。

●オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。
なお、この場合、ハンドルはリターン機能作動を継続します。

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

パワーイージーアクセスシステムのシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。シートスライドを非作動にした場合、パワーイージーアクセスシステムはハンドルのみの作動になります。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

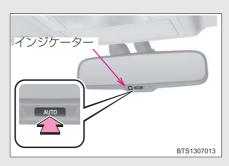
警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

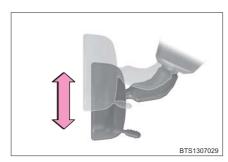
■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

インナーミラー

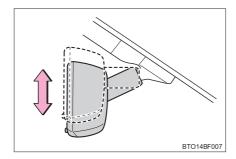
後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。（手動防眩タイプ装着車）

1 通常使用状態

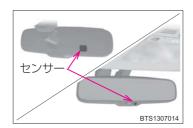
2 防眩状態

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。（自動防眩タイプ装着車）

自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

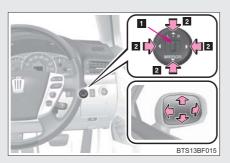
▶ 手動防眩タイプ装着車

BTS1307029

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

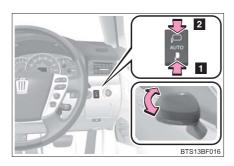
▶ 自動防眩タイプ装着車

BTO14BF007

知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整ができます。

1 ミラーを選ぶ

（L：左、R：右）

2 スイッチを操作してミラー角度を上下左右に調整する。

ドアミラーを格納するときは

1 格納する

2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→P. 237)

■ミラー角度の自動調整*

お好みのミラー角度をマイコンプリセットドライビングポジションシステム*(→P. 62)に登録すると、自動で調整されます。

■リバース連動機能*

後退時にドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしておくと、この機能は作動しません。

■レインクリアリングミラー

●雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

●次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間当てると回復します。

・ミラーの汚れをふき取ったとき
・ミラーが曇ったとき
・自動洗車機でワックス洗車したとき
・長時間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

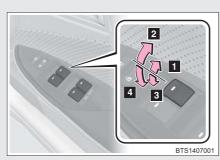
■**走行しているときは**

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■**ミラーが動いているときは**

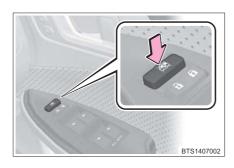
手を触れないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障の原因になるおそれがあります。

■**ミラーヒーターが作動しているときは**

鏡面が熱くなるので触れないでください。

注意

■ミラーが凍結したとき

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める

2 自動全閉※（強く引く）

3 開ける

4 自動全開※（強く押す）

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。
(→ P, 399)

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧→ P, 420)

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ **ドアガラスを開閉するときは**

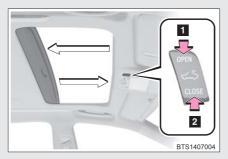
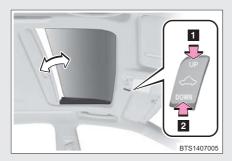
以下のことをお守りください。

●運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない

●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉、またはチルトアップ / ダウンできます。

■ 自動開閉

1 開く

全開手前位置で止まります。さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン

1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

メカニカルキーでもムーンルーフを開閉できます。
(→ P, 399)

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間操作できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ムーンルーフを閉めることができないとき

故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けることで閉めることができます。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■閉め忘れ警告表示

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P, 374)

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する。

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける。※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す。

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する。

手順 2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする。

手順 3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける。※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止し、※2 微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す。

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10秒間停止した後にスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧→ P, 420)

警告

■ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

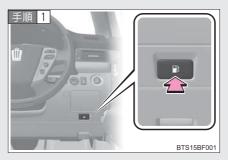
以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

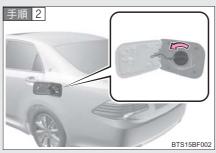
●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

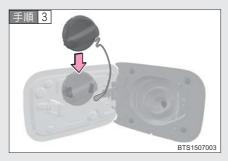
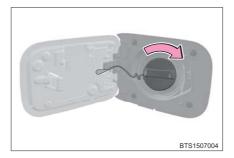
■ 給油口の開け方

BTS15BF001

給油口を開ける。

BTS15BF002

キャップをゆっくり回して開ける。

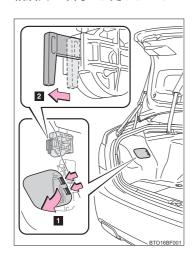
BTS1507003

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

BTS1507004

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

4GR-FSE エンジン搭載車：無鉛レギュラーガソリン

3GR-FSEエンジン搭載車/2GR-FSEエンジン搭載車：無鉛プレミアムガソリン

■燃料タンク容量

約 71 L

■給油口が車内から開けられないときは

BTO16BF001

車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内にあるカバーを取りはずし（1）、その穴の上側にあるレバーを引きます（2）。

⚠ 警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近づけない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- ●エンジンの始動性が悪くなる
- ●ノッキングが発生する
- ●エンジン出力が低下する
- ●排気制御システムが正常に機能しない
- ●燃料系部品が損傷する
- ●塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮ モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

ナビゲーションシステム装着車で G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、オートアラームが作動した場合、E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書 /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉めスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティインジケーターは点灯から点滅にかわり、同時に侵入センサーが作動します。

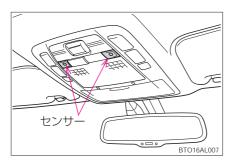
■ オートアラームの設定を解除および作動を停止するには

以下のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

注意

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ **オートアラームの作動について**

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき
- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを電波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。
このシステムは車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。
車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 侵入センサーを作動させるには

オートアラームを設定すると侵入センサーが作動します。（→P. 97）

■ 侵入センサーを停止してオートアラームを設定するには

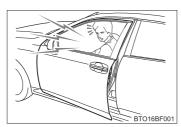
“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押してからオートアラームを設定する。（→P. 97）

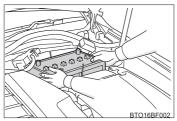
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。もう一度スイッチを押すと侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを停止してアラームを設定するには、アラームを設定するたびに侵入センサー OFF スイッチを押す必要があります。

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

●ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作を行ってください。

●車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■侵入センサーの停止・復帰について

●侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。

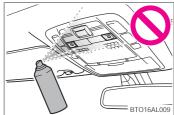
●侵入センサーを停止したあとに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーが復帰します。

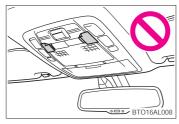
■G-BOOK mX Pro（ご契約のお客様のみ）

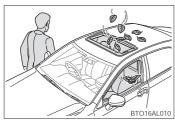
●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定のＥメールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」を参照してください。

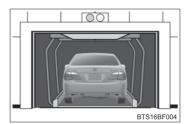
注意

■侵入センサーについて

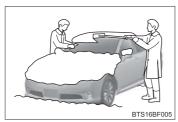
次のことをお守りください。
センサーが正しく働かない場合があります。

●センサーの穴をふさがない

●センサーの穴にスプレーを噴霧しない

注意

■侵入センサーの検知について

次のような場合には、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

BTS16BF003

●車内に乗員やペットなどを残して、車両から離れる場合

BTO16AL010

●ドアガラスやムーンルーフ*などが開いている場合、次のものを検知することがあります。

・車内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・車外の歩行者の動き

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

BTS16BF004

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき

BTS16BF005

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

BTS16BF006

●霜よけシートが風などで動いたとき

注意

■侵入センサーの検知について

- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取りつけたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車内に伝わったとき

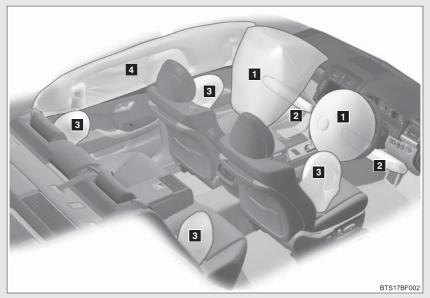
■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 55）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 55）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 73）
5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 65）
6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 68）

⚠警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、リヤ席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ナビゲーションシステム装着車で、G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

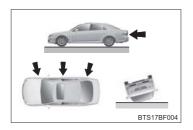
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

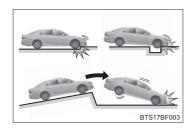
●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

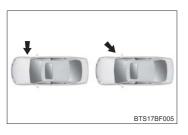
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 k m/ h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

BTS17BF003

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

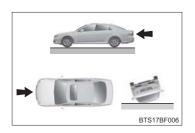
●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

BTS17BF004

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTS17BF007

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTS17BF008

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

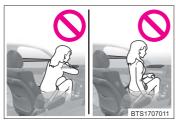
BTS17BF009

●ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTS17BF010

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。（→P. 126）

BTS1707011

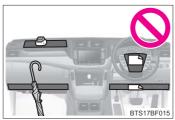
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

BTS1707012

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

■SRS エアバッグについて

BTS17BF013

●ドアやフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

BTS17BF014

●助手席や、リヤ外側シートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

BTS17BF015

●ダッシュボード、ステアリングパッド部、インストルメントパネル下部などには何も取りつけたり、置いたりしない。

BTS17BF016

●ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取りつけない。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取りつけ・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の不適切な修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウインチなどの取りつけ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取りつけ

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0+　：13kg まで
グループⅠ　：9 ～ 18kg
グループⅡ　：15 ～ 25kg
グループⅢ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 （10kg まで）	×	U	UF
0^{+} （13kg まで）	×	U	UF
Ⅰ （9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	UF
Ⅱ （15 ～ 25kg）	UF	U	UF
Ⅲ （22 ～ 36kg）	UF	U	UF

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取りつけることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

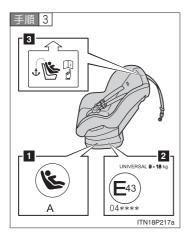
■シートベルトで取り付ける（→P. 126）タイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 119）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 120)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する。

(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0^+」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する。

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0^+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
(例2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 121)で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する。

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

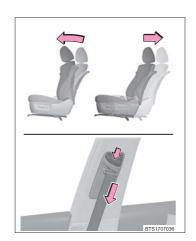
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 126）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート（B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

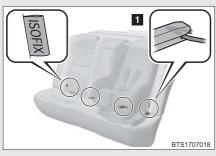
●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■**子供専用シートを使用しない場合**

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取りつけ

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側席に取りつけてください。
取りつけ方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

BTS17BF017

シートベルトによる取り付け（→P. 127 ）

BTS1707018

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→P. 128 ）

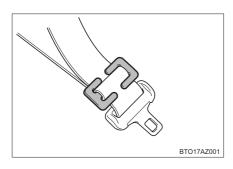
リヤシートの外側の座席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。）

BTS17BF019

2 トップテザーアンカー（→P. 128 ）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

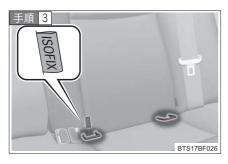
シートベルトで固定する

BTS17BF020

リヤパワーシート装着車ではリクライニングしていないことを確認してから、チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。
ベルトがねじれていないようにする。

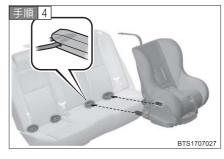
チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

BTO17AZ001

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

手順 1 リヤパワーシート装着車ではリクライニングしていないことを確認しておく。

ヘッドレストをいちばん下まで下げる。

固定専用バーの位置を確認する。

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

チャイルドシートをシートに取りつける。

チャイルドシートの取りつけ金具をチャイルドシート固定専用バーに取りつけます。
取りつけ方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書にしたがってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取りつけたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認する。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取りつけてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取りつけるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

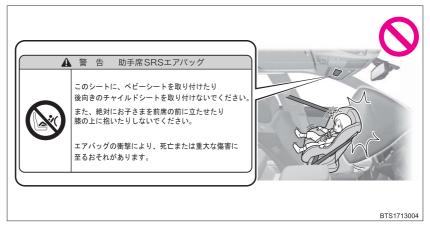
●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。

警告

■チャイルドシートを取りつけるときは

BTS1707030

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取りつけられない場合は、助手席側のリヤシートに取りつけてください。

BTS1713004

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■**チャイルドシートを取りつけるときは**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取りつける場合には、助手席シートを一番うしろに下げて取りつけてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 144）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 150）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 156）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 150）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 156）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 150）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてエンジンを止める。（→P. 145）

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取りつけ

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取りつけることはできません。

■環境に配慮した運転をするには

エコドライブインジケーターランプが点灯すると環境に配慮した運転をしていることをお知らせします。
必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
なお、以下の 2 つの条件を満たすと作動します。

●シフトレバーを D で走行中

●走行モードが通常走行モードまたはエコモード

警告

■**発進するときは**

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●走行中に決してシフトレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。

警告

■運転するときは

●走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●走行中はエンジンを切らないでください。
パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 150)

●坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

●ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**すべりやすい路面を運転するときは**

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドが濡れるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**停車するときは**

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスが漏れたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**ブレーキをかけるときは**

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■**万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

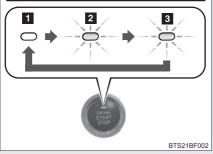
- ●ハンドルがとられる
- ●異常な振動がある
- ●車両が異常に傾く
- ●タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。（→P. 387）

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作すると、通常はどのモードからでもエンジンが始動できます。）

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切り替え

BTS21BF002

1 OFF

シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 イグニッション ON モード

全ての電装品が使用できます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏み、スイッチ上のインジケーターが緑に点灯することを確認する。

緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

■ エンジン停止のしかた

手順 1 車両を停止させる。

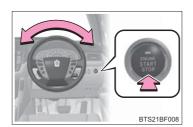
手順 2 シフトレバーを P の位置にする。

手順 3 パーキングブレーキをかける。(→P. 156)

手順 4 " エンジン スタート ストップ " スイッチを押す。

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして " エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、" エンジン スタート ストップ " スイッチのモードは OFF になりません。以下の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーを P の位置にする。

手順 3 " エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、" エンジン スタート ストップ " スイッチを 1 回押す。

手順 4 " エンジン スタート ストップ " スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。

知識

■ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。" エンジン スタート ストップ " スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 96)

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ ”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ” スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■ クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 25 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 34

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 400

■ スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 40

■ ご留意いただきたいこと

→P. 35

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

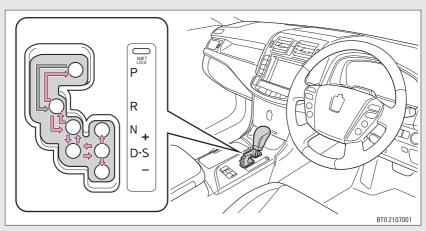
走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、３秒以上“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触れないでください。走行中にエンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

- “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF になっていません。“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP 以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■**エンジンを始動するとき**

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■**“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について**

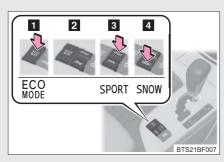
“エンジン スタート ストップ”スイッチ操作時に引っ掛かりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかに販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2 (→P. 152)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えた走行ができます。

■走行モードの選択

走行使用条件にあわせて以下のモードを選択できます。

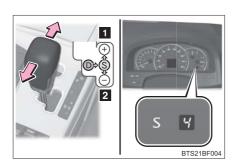
1 エコモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。
同時に、マルチインフォメーションディスプレイの表示が平均燃費画面に切り替わります。

2 通常走行モード

3 スポーツモード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

4 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押すか、他のモードのスイッチを押します。
また、エコモードが ON の状態は " エンジン スタート ストップ " スイッチを OFF にしても記憶されています。

S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーを操作します。

1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 レンジずつ変わります。
シフトレバーをシフトレンジアップ側へ1秒以上保持すると 6 レンジに設定されます。
1 ～ 6 の間で選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは４レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれにしたがい、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。(→P. 154)

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■S モードに関する自動変速について

1 ～ 5 レンジが選択された状態で加速し、エンジン回転数がレッドゾーン付近になると、自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 397

■クルーズコントロール＊またはレーダークルーズコントロール＊を使って走行しているとき

S モード走行時に 5 または 4 へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。

■NAVI・AI-SHIFT について (ナビゲーションシステム装着車）

ナビゲーションシステムからの情報を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

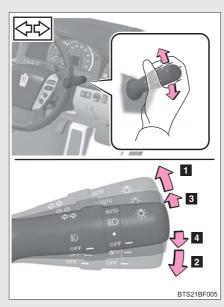
■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切り替えます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。）

■AVS *について (AVS: アダプティブ バリアブル サスペンションシステム）

ＡＶＳ は減衰力応答性に優れたショックアブソーバーとコンピューターによる減衰力制御を組み合わせたシステムです。路面の凸凹やハンドル操作などによる車両の挙動変化をショックアブソーバーが４輪独立で抑制・吸収することにより、最適な減衰力制御を行い、ソフトな乗り心地とフラットな操縦安定性を両立させています。

■NAVI・AI-AVS について (ナビゲーションシステム装着車）

ＡＶＳ の制御に加え、ナビゲーションシステムの情報を利用し、下記の制御を行います。

●ナビゲーションの道路コーナー情報に基づいて、旋回直前にショックアブソーバーの減衰力を最適に制御することにより、コーナーリング性能を向上させます。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路にて制御を実施します。

●センサーにより感知した路面の段差などの情報を地図に記録し、次から同じルートを走る際には、そのデータを参照した最適な減衰力制御によって、なめらかな乗り心地をもたらします。ナビゲーションが高速道路を走行していると判断しているときで、スポーツモードを選択しているときのみ学習結果を反映した制御を行います。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

＊: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

1 左折

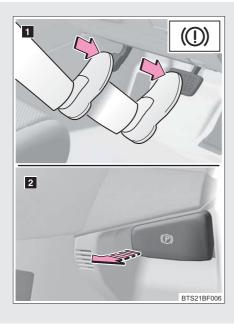
2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

右足でブレーキペダルを踏みながら、解除レバーを引きます。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 218)の記載を参照してください。

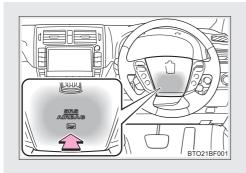
■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 374

警告

■走行前の注意

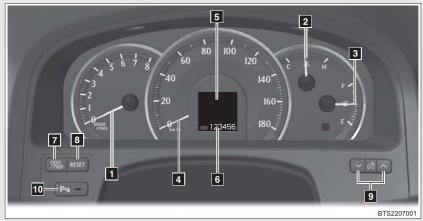
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 73）

計器類

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにすると、メーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 マルチインフォメーションディスプレイ

→P.164

6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

7 オドメーター、トリップメーター表示切り替えスイッチ

オドメーター、トリップメーターの表示の切り替えができます。

8 トリップメーターリセットスイッチ

ボタンを長押しすると、トリップメーターをリセットすることができます。

9 メーター明るさ調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。

10 クリアランスソナーメインスイッチ*

「ナビゲーションシステム取扱書」参照

オドメーター / トリップメーター切り替え、トリップメーターリセットスイッチ

BTS2207002

1 表示を切り替える

2 トリップメーターの走行距離が 0 にもどる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

メーター明るさ調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。

1 明るくなる

2 暗くなる

マルチインフォメーションディスプレイに明るさ調整画面が表示されます。

知識

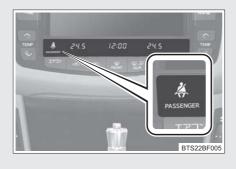
■メーターの明るさの調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

■減光について

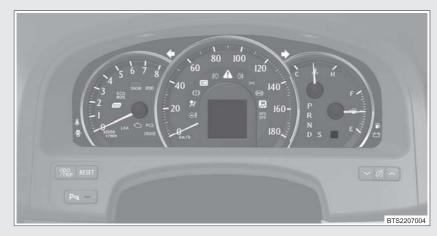
周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。
周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メータ照明は減光されません。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。（→P.406）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

- 方向指示表示灯（→P.155）
- 尾灯表示灯（→P.169）
- ※ AFS OFF 表示灯（→P.170）
- ヘッドライト上向き表示灯（→P.169）
- ※ エコドライブインジケーターランプ（→P.135）
- LKA 表示灯*（→P.189）
- ※ スリップ表示灯（→P.196）（点滅）
- ※ PCS 警告灯*（→P.366）（点灯または早い点滅）
- エコモード表示灯（→P.151）
- ※ SPORT 表示灯（→P.151）
- クルーズコントロール表示灯（→P.177、180）
- SNOW 表示灯（→P.151）
- フロントフォグライト表示灯（→P.172）
- リヤフォグライト表示灯*（→P.172）
- シフトポジション表示灯（→P.152）

※作動確認のために " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのとき、または点滅する場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
(SPORT 表示灯は AVS 装着車のみ作動確認の点灯を行います)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P.365)

※1 作動確認のために"エンジン スタート ストップ"スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯・点滅したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 "エンジン スタート ストップ"スイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に半ドア警告表示が表示されます。(→P.374)

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、"エンジン スタート ストップ"スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

- トリップインフォメーション（→P.165）

  航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- レーダークルーズコントロール表示＊（→P.180）

  レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- レーンキーピングアシスト表示＊（→P.189）

  レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。

- クリアランスソナー表示＊（ナビゲーションシステム取扱書参照）

  クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。

- 警告メッセージ（→P.370）

  各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

- メーター明るさ調整（→P.160）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示の切り替え

表示を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

● 平均燃費 / エコドライブインジケーターゾーン表示

リセットしてからの平均燃費とエコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

・リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
ナビゲーションシステム装着車では、「区間燃費画面」もリセットされます。「区間燃費画面」については「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

● 外気温

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 給油後平均燃費

給油してからの平均燃費を表示します。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

知識

■外気温表示について

外気温の測定が正しく行われないときは「――℃」または「 E ℃」と表示されます。

■エコドライブインジケーターゾーン表示について

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。
アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲を超えた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。
なお、以下の 2 つの条件を満たすと作動します。

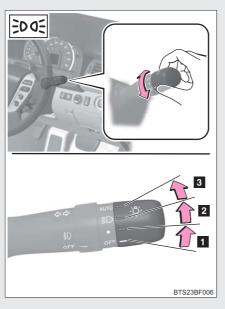
●シフトレバーを D で走行中

●走行モードが通常走行モードまたはエコモード

■バッテリー端子の脱着をしたときは

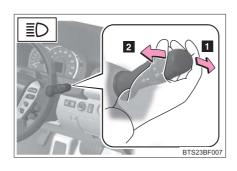
バッテリー端子の脱着を行うと、以下のデータはリセットされます。

・ 平均燃費
・ 航続可能距離

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

BTS23BF006

1 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

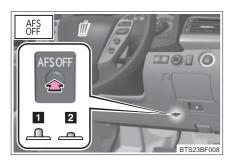
（“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする

BTS23BF007

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

BTS23BF008

1 ON

2 OFF

メーター内のAFS OFF表示灯が点灯します。

知識

■ライトセンサー

BTS23BF009

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。
再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

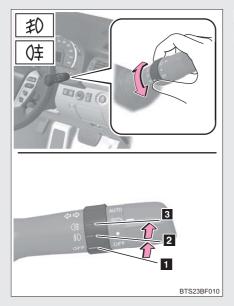
システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

■AFS OFF スイッチについて

AFS OFFスイッチのとなりに、同じ形状のプリクラッシュブレーキOFFスイッチ*（→P. 203）があるため、押し間違えないよう注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フォグライトスイッチ

雨・霧・雪などで視界が悪いときに、フロントフォグライトはヘッドライトの補助として、リヤフォグライト*は後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

■ フロント＆リヤフォグライトスイッチ

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

3 フロント＆リヤフォグライト点灯

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■点灯条件

●ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

●リヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

●リヤフォグライトは、後続車に追突されるのを防ぐため、自分の車の存在を知らせる赤色灯です。

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

●視界が悪いときでも、市街地走行などにおいて後続車の迷惑になる場合は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

▶ 雨滴感知式ワイパー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

1 雨滴感知式ワイパー：
オート作動（AUTO）
間欠時間調整式ワイパー：
間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。）

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

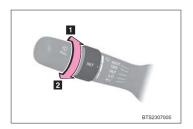
■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

ＡＵＴＯ 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。
LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。）

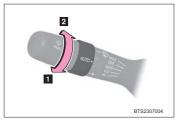
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■AUTO 作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

BTS23BF003

雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的に当たるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

BTS2307004

ツマミを回すとセンサーの感度が調整できます。

1 雨滴センサーの感度調整（高）

2 雨滴センサーの感度調整（低）

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのときワイパースイッチをAUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または－ 10 ℃以下のときは AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■間欠作動（間欠時間調整式ワイパー装着車）

1 間欠時間の調整（長）

2 間欠時間の調整（短）

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

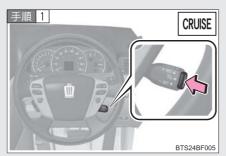
AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

クルーズコントロール ＊

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

■ 速度を設定する

BTS24BF005

メインスイッチを ON にする。

OFF にするには再びスイッチを押します。

BTS24BF006

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する。

■ 設定速度を変える

BTS24BF007

1 増速

2 減速

希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。ただし、車速が 40km/h 以下の場合は復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4、5、6 レンジのとき設定できます。

●車速は約 40 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した

●車速が約 40 km/h 以下になった

●VSC が働いた

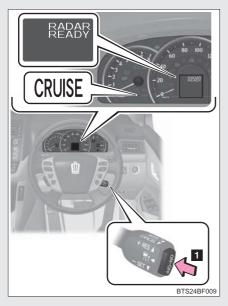
■定速走行中に表示灯が点滅したときは

メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときはメインスイッチを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

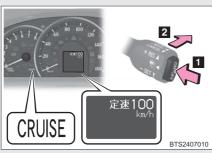
レーダークルーズコントロール＊

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。

■ 制御モードを選択する

車間制御モードを選択する。

1 メインスイッチを ON にする

OFF にするには再びスイッチを押します。

定速制御モードを選択する。

1 メインスイッチを ON にする

2 定速制御モードに切り替え（約 1 秒間長押し）

OFF にするには再びスイッチを押します。
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

BTS24BF011

希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する。

■ 設定速度を変えるには

BTS24BF012

1 増速

2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

定速制御中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

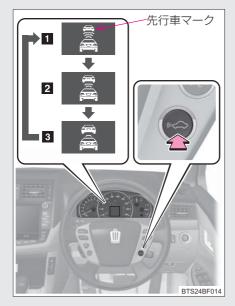
■ 制御を解除する・復帰させるには

BTS24BF013

1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

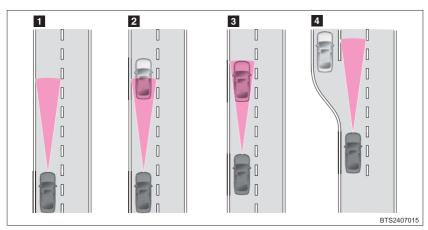
2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

スイッチを押すごとに車間距離を切り替える。

1 長い

2 中間

3 短い

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。

1 定速走行（先行車がいないとき）：
100 km/h に設定した場合

運転者が設定した車速で定速走行します。

2 減速走行（設定した車速より遅い先行車が現れたとき）：
100 km/h で定速走行時に、80 km/h の先行車がいる場合

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報（→P. 376）を鳴らします。

3 追従走行（設定した車速より遅い先行車に追従するとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいる場合

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいなくなった場合

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

知識

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示・警報

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示、警報で注意をうながします。(→P. 370)

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4、5、6 レンジのとき設定できます。

●車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●車速が 40 km/h 以下になった

●VSC が働いた

●レーダーセンサーの汚れが判定された

●ワイパーが HI(高速)で作動した

●走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した

●車速が約 40 km/h 以下になった

●VSC が働いた

■車間距離選択の目安

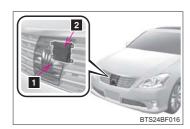
以下の目安を参考に車間距離を選択してください。（→P. 182）（車速 80 km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー
2 レーダーセンサー

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはメインスイッチをOFFにしてください。

警告

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

●高速道路の出入り口

●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●接近警報が頻繁に鳴るとき

■**センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 376）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●停車中の車がいるとき

●先行車の車両のうしろ部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

⚠ 警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- ●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ●ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合

■レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには以下のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●何か貼ったり、取りつける
- ●汚れたままにしておく
- ●分解したり、強い衝撃を与える
- ●改造や塗装
- ●純正品以外の部品に交換する
- ●センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白 (黄) 線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、ピピピピ・・・というブザーやマルチディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報により注意をうながします。

■ 車線維持支援機能

車線の中央付近を走行する際に、小さい力の範囲で操舵力を付加することによりドライバーのハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能作動中は体感警報は作動しません。

■ 設定のしかた

LKA スイッチを押すと、白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール (車間制御モード) の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。

スイッチを押し設定する。

解除するには再度スイッチを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が 約 50km/h ～	車速が約 65 ～ 100km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が約 64 km/h 以下 で車間制御走行 しているとき	○	×
	ON 設定車速が約 65 km/h 以上 で車間制御走行 しているとき	○ （車速約 50 ～ 65km/h、 100km/h ～）	○

マルチディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。

1 ハンドル表示

ハンドル表示 + READY という表示が出ているとき：車線維持支援機能が開始可能な状態

ハンドル表示のみのとき：車線維持支援機能作動中

2 レーダークルーズコントロール表示

3 車線表示

線が細いとき：白（黄）線が認識できていないまたは、機能を一時解除している

線が太いとき：車線逸脱警報機能作動中

車線維持支援機能作動中

知識

■機能の一時解除

以下のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

●方向指示レバーを操作したとき

●車線変更に相当する程度にハンドルを操作したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。

●作動条件以外の車速になったとき （ 車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき （車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●ワイパースイッチを LO（低速）または HI（高速）にしたとき （車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき （ブザーあり）

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒、手放し運転と判断された場合は、ピピッとブザー音が鳴り、ディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。

■炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→ P. 194）の温度が適温になると作動開始となるので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■LKA 作動中について

LKA 作動中にドライバー操舵操作が加えられた場合は、作動を中断しその操作を優先します。

⚠警告

■LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。前方不注意を補助するものではないので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■正しく作動させるには

以下の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能しないため、LKA を OFF にして走行してください。なお、手放し運転を行った場合は十分な性能が確保できません。

●白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき

●雨、雪、霧、逆光などで白（黄）線が見えにくいとき

●ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき

●検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき

●急激な明るさの変化が連続するとき

●道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき

●高速道路などの本線 (走行車線、追い越し車線) 以外の車線を走行するとき

●工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき

●車線の幅が極端に狭いときや広いとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき

●反射ポール等の構造物がある場合

●うねった道路や荒れた道路を走行するとき

●対向車のヘッドライト光がカメラに入射した場合

●雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき

●タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着した際は、十分な性能を確保できません。

注意

■白線認識用カメラ

BTS24BF018

LKA の故障や誤作動を避けるために、以下のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取りつけを変更したり、取りはずしたりしない
- 防眩ミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上に物を置かない
  フロントガラスに写り込んだ映像を、白線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシール等を貼らない

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト*

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ 緊急ブレーキシグナル

→P. 201

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）*

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤの切れる角度を制御します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ＶＤＩＭ（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、TRC 、VSC、EPS、VGRS を総合的に制御します。すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ブレーキ、エンジン出力、ハンドル操作力、タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 202

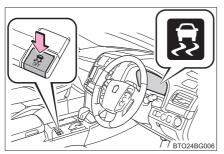
■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 212

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

BTS2407019

車両が横すべりしそうになったとき、後輪が空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。

TRC や VSC を停止するには

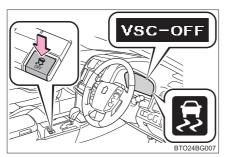
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

スリップ表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにVSC-OFF 表示が表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止したあと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が速くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロール、VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時・発進直後・停止時・ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえたり、ハンドルが“ピクッ”と動いたりすることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VGRS の作動が停止する場合

以下の状況では、VGRS が作動を一時的に停止することがありますが、異常ではありません。

●停車中や極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けたとき

●ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき
この場合、VGRS のモーターやコンピューターが過熱するのを防ぐため、システムの作動を一時的に停止することがあります。このため、低速走行時のハンドル操作量が多くなりますが、走行には支障ありません。その後、モーターやコンピューターの温度が下がれば、数分で正常な状態に復帰します。
また、モーターやコンピューターの温度が急激に上昇したときは、ハンドルの直進位置がずれる場合があります。頻繁にこの状態になる場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●-30°C 程度の寒冷時でエンジン始動直後にハンドルを操作したとき
この場合、ハンドル操作量が多くなることがありますが、一時的に VGRS の作動を停止しているだけで異常ではありません。

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■低速時に素早くハンドル操作したときは

一時的にハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで、自動的に正常な位置に復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

VGRS が初期化されるため「VGRS システムチェック」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。このとき、ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、通常のハンドル操作には支障はありません。ハンドルの直進位置は、そのまま走行することで、自動的に正常な位置に復帰します。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

●システムが車両の後退を検知したとき

●シフトレバーが D または S の位置にあるとき

●ブレーキペダルが踏まれてないとき

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

警告

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 417）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

知識

■システムの作動条件

以下のときシステムが作動します。

●車速約 55 km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■システムの解除条件

以下のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。また、前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示

衝突の可能性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ‥”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 69）

■ プリクラッシュブレーキアシスト

ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力の増強に貢献します。

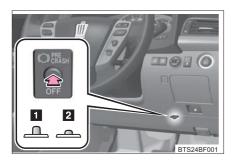
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度の低減に貢献します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

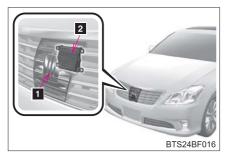
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むことの抑制に貢献します。

■ ドライバーモニター*

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じている状態にある場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに、状況が改善しない場合には、警報ブレーキが作動します。

■ 警報ブレーキ*

運転手が正面を向いていない、または運転手の眼が閉じていて衝突の可能性が高い状態が継続した場合は、短時間の減速による体感警報により回避操作をうながします。

プリクラッシュブレーキの切り替え

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

1 プリクラッシュブレーキ ON

2 プリクラッシュブレーキ OFF

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

レーダーセンサー

走行中に進路上またはその付近に車や物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

ドライバーモニター用カメラ

運転者の顔の向きと眼の開閉状態を検知し、正面を向いていない・眼を閉じていることをシステムが判断します。

知識

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 5 km/h 以上
・自車からみた対向車か障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストへの作動条件：

・車速が約 30 km/h 以上
・自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

●サスペンションコントロールの作動条件

・車速が約 5 km/h 以上
・自車から見た車や障害物との接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

●警報ブレーキの作動条件

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・正面を向いていないと判断したとき
・眼を閉じていると判断したとき
・自車速度が約 40km/h 以上
・自車から見た車や障害物との接近速度が約 40km/h 以上
・車両直進状態

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されてない状況では有効に作動しないこともあります。

●きついカーブや起伏がある場所

●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況

●車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

●カーブ入り口に障害物があったとき

●カーブで、対向車とすれ違ったとき

●細い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれ違ったとき

●前を走っている車に急に近づいたとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 365、370)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

警告

■ドライバーモニター用カメラの取り扱い

ドライバーモニターの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となったり、顔向き / 眼の開閉判定ができないおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷つけたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない
- 走行中はカメラを触ったりしない
- カメラを濡らしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、汚れ、結露、シール貼り等がないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、おおったりしない

■顔向き / 眼の開閉判定について

以下のときは正常に顔向き / 眼の開閉判定ができない場合があります。

- カメラと顔のあいだにさえぎるものがあるとき
（カメラの前にものを置く、ステアリング回転中など）
- 顔の一部が隠れる状況（サングラス、マスク、メガネ等）
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラに当たる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき
- 停車中

注意

■**ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意**

● 傷をつけないよう、やわらかい布で軽くふいてください。

● 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。

● ベンジン、シンナー、ガラスクリーナー、ワックスなどを使用しないでください。

■**プリクラッシュブレーキ OFF スイッチについて**

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチのとなりに、同じ形状の AFS OFF スイッチ（→P. 170）があるため、押し間違えないよう注意してください。

後方プリクラッシュセーフティシステム*

追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害を軽減するためのシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意をうながします。

■ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）

追突の危険性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを　適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害を軽減します。

レーダーセンサー

BTS24BF004

レーダーセンサーにより、後方から接近する物を検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■システムの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに以下の条件で作動します。

●後方車両への警報（非常点滅灯）

・ 自車から見た後方車の接近速度が約 30 km/h 以上
・ 停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF

●むち打ち傷害軽減

・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15 km/h 以上
・ 停止または前進している

■センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムはすべての追突を検知できるシステムではありません。以下のときは作動しない場合がありますので周辺への注意を怠らないでください。

●車両姿勢が極端に変化しているとき

●自転車、オートバイなどは検知しないことがあります

●雨滴、氷雪が専用カバー (→P. 215) に付着したとき

●カーブや起伏の大きな道路のとき

●斜めからの追突やオフセットの大きな追突のとき

■むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- ●右左折などで停車したときなどに、自車の真うしろを後続車がすり抜けたとき
- ●道路脇に停車したときなどに、車が真横をすり抜けたとき
- ●走行時、後方車が近距離から追い越したとき
- ●走行時または停車時、後方車が近距離まで急接近したとき

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 365、370)

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

- ●センサーを分解しない。
- ●センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

⚠ 警告

■専用カバーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車の専用カバーは、レーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- 専用カバーは常にきれいにしておく。
  雨滴、氷雪などによって性能が低下することがあります。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける。
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、修理してください。
- 専用カバー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーをつけたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない。
- 専用カバーの改造や別のものに交換しない。
- 専用カバーの塗装修理は絶対行わないでください。誤作動、不作動の原因となります。
- 専用カバーが傷ついた場合、塗装修理は行わず、専用カバーを交換してください。交換については、トヨタ販売店に相談してください。

■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

トヨタ純正品以外のヘッドレストカバーはつけないでください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ・運転席足元
  - ・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（→P. 417）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

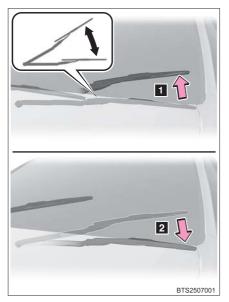
● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止めをしてください。

ワイパー停止位置の切り替え（寒冷地仕様車）

積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切り替えておきます。

ワイパーアームのフック部をしっかり持ってワイパーの停止位置の切り替えを行ってください。

1 積雪時の停止位置にする：
ガラス面にそって引き上げます。

2 通常の停止位置にもどす：
フック上部を手で押します。

ワイパーを立てるときは、積雪時の停止位置に切り替えてから立ててください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・安全に作業できる場所で行う
・後 2 輪に取りつける
・タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・取りつけ後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル、急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

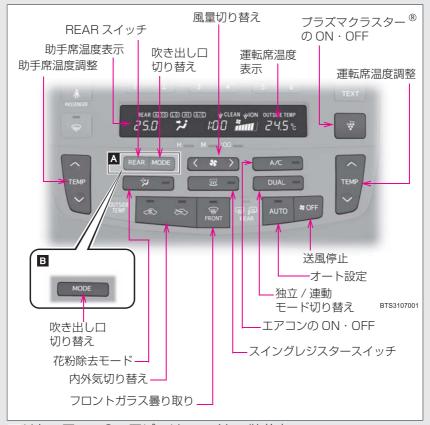
■**タイヤチェーンの使用について**

● 必ずクラウン指定のトヨタ純正品を使用してください。
上記のチェーン以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけるとホイールに傷がつくことがあります。

■**フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

フロントオートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

▶ ナビゲーションシステム装着車
ナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ ナビゲーションシステム非装着車

A リヤエアコン＆エアピュリファイヤー装着車

B リヤエアコン＆エアピュリファイヤー非装着車

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1

を押す。

エアコンが作動し吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは

の∧を、下げるときは∨を押す。

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1

を押す。

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 DUAL を押す。

手順 3 運転席側は

、助手席側は

を押し、温度を調整する。

再び DUAL を押すと、連動モードになります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

A/C を押す。

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は 、助手席側は を押し、温度を調整する。

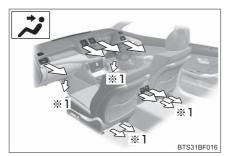
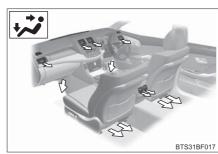
連動モード使用時、助手席側の を押すと独立モードに切り替わります。

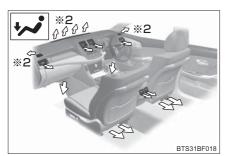
■ 風量をかえるには

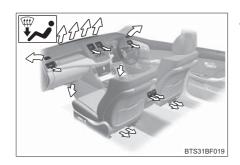
風量切り替えスイッチの右（増）か 左（減）を押す。

風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

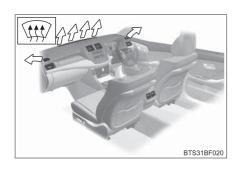
■ 後席から設定温度をかえるには (リヤエアコン装着車のみ)

温度を上げるときはリヤ操作部の の∧を、下げるときは∨を押す。

リヤ操作部の温度調整スイッチで温度を調整すると、運転席・助手席の設定温度が連動してかわります。

■吹き出し口を切り替えるには

吹き出し口切り替えスイッチを押し、吹き出し口を選択する。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

※１ 冷房時にAUTOスイッチをＯＮにすると送風されることがあります。
※２ AUTO スイッチが ＯＮ のとき送風されます。

BTS31BF019

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

 を押す。

スイッチを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わり、選択した側の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには

BTS31BF020

 を押す。

エアコンが作動します。

曇りが取れたら、再度 を押す。

花粉除去モードを使うには

を押す。

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に） を押す前のモードにもどります。

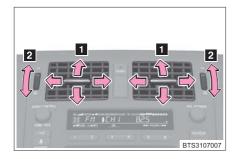
途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

吹き出し口をスイングさせるには

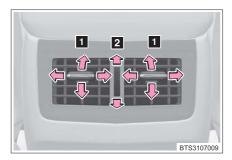
を押す。

中央吹き出し口が自動で左右に首振りします。
再度 を押すと作動が停止します。

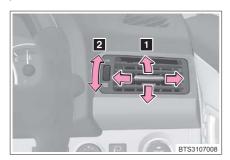
プラズマクラスター® を使うには

を押す。

モードの切り替えは自動で行われます。プラズマクラスター® イオンのときはCLEAN、マイナスイオンモードのときは ION が表示部に表示されます。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ リヤ吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

- 外気温が高いとき設定温度を下げると内気循環に切り替わる
- AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る場合がある

■内気循環について

- トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷暖房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
- 長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

●内気循環に切り替わらない

●エアコンが自動的に作動する

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードがOFFのときも花粉はエアコンフィルターで取り除かれています。

■プラズマクラスター®について

●中央吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

■A/Cの作動表示灯が点滅したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスター® について

●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●中央吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤエアコン&エアピュリファイヤー（空気清浄器）*

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

▶ フロント操作部

▶ リヤ操作部

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オート設定を使うとき

フロント操作部にある REAR を押す、またはリヤ操作部にある AUTO を押す。

フロント操作部で操作するときは、フロントの表示部に REAR AUTO が表示されるまで数回押します。

■ リヤエアコン・エアピュリファイヤーの作動について

フロントエアコン	リヤエアコン・エアピュリファイヤー	風量
ON	リヤエアコン・エアピュリファイヤーが同時に作動	室内の空気の汚れ、またはフロントエアコンの風量制御をもとに自動で調整
OFF	エアピュリファイヤーのみ作動	室内の空気の汚れを感知すると自動で調整

お好みの設定で使うとき

■ 作動状態を切り替える

フロント操作部にある REAR を押す、またはリヤ操作部にある MODE を押す。

選択しているモードがフロント表示部、リヤ操作部の表示灯に表示されます。

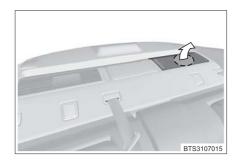
▶ フロントエアコンが ON のとき

スイッチを押すごとに次のように切り替わります。
AUTO ※1 → LO → LO A/C → HI A/C → 停止※2

モード表示	リヤエアコン	エアピュリファイヤー	風量
LO	停止	作動	弱
LO A/C	作動	作動	弱
HI A/C	作動	作動	強

▶ フロントエアコンが OFF のとき

スイッチを押すごとに次のように切り替わります。
AUTO ※1 → LO → HI → 停止※2

モード表示	リヤエアコン	エアピュリファイヤー	風量
LO	停止	作動	弱
HI	停止	作動	強

※ 1：フロント操作部のスイッチを押して操作したときに選択できます。リヤ操作部から選択したいときは AUTO スイッチを押します。

※ 2：フロント操作部のスイッチを押して操作したときに選択できます。リヤ操作部から停止したいときは OFF スイッチを押します。

風向きの調整

風向きの調整

エアピュリファイヤーの吹き出し口

BTS3107015

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター（曇り取り）

リヤウインドウの曇りや、ドアミラーの霜、露、雨滴などを取るときにお使いください。

オン／オフ

押すごとにオン / オフが切り替わり、作動中はインジケーターが点灯します。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーターは自動的にオフになります。

作動時間は外気温度や車速によって変わります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

BTS31BF013

オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約15分で自動的にオフになり、作動中はインジケーターが点灯します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

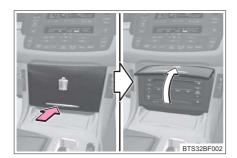
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオの種類（ナビゲーションシステム非装着車）

▶ **ナビゲーションシステム搭載車**

ナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ **ナビゲーションシステム非搭載車**

CD プレーヤー、MD プレーヤー、AM/FM ラジオ

BTS32BF001

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 241
CD プレーヤーの使い方	P. 243
ＭＰ ３／ＷＭＡ ディスクの聞き方	P. 249
MD プレーヤーの使い方	P. 256
快適に聞くために	P. 260
ステアリングスイッチ	P. 262
リヤオーディオコントローラー	P. 265

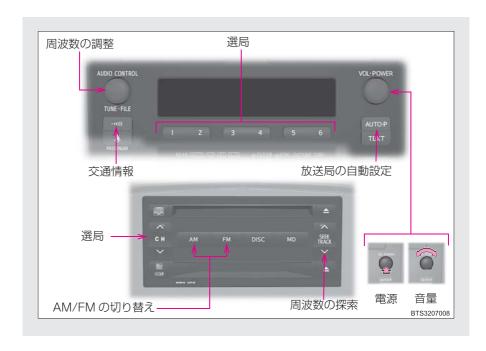
オーディオ操作部のフタの開け方

フタを押すと開く。

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえるときがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

周波数の調整
選局
交通情報
放送局の自動設定
選局
AM/FM の切り替え
周波数の探索
電源
音量
BTS3207008

放送局を記憶させる

■ 手動設定

  を回して、または の "Λ"（高い周波数）または "V"（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す。

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 2 ～ 5 6 を " ピッ " と音が鳴るまで長押しする。

■ 自動設定

AUTO·P を " ピッ " と音が鳴るまで長押しする。

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると " ピッピッ " と音が鳴ります。

交通情報を受信する

を押す。

もう一度押すと解除されます。

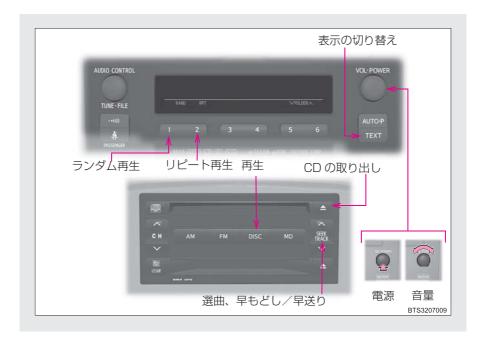
知識

■ について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AMラジオモードのとき を "ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● を 押して、ラジオを受信しているときは、 SEEK TRACK ・

・ 1 2 ～ 5 6 ・ AUTO･P を操作しても、周波数は切り替わりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

1 2 ～ 5 6 に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきで変わるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● AUTO･P を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●ラジオ用アンテナはリヤガラスに埋め込まれています。

CD プレーヤーの使い方

表示の切り替え
ランダム再生
リピート再生
再生
CD の取り出し
選曲、早もどし／早送り
電源
音量
BTS3207009

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する。

CD を取り出す

⏏ を押して CD を取り出す。

曲を選ぶ

の "Λ"（次曲）または "V"（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる。

早もどし、早送りする

早送りするには、

の "∧"（早送り）または "V"（早もどし）を押し続ける。

ランダム（RAND）再生する

1（RAND）を押す。

リピート（RPT）再生する

2（RPT）を押す。

表示を切り替える

TEXT を押す。

押すごとに、次のように表示が切り替わります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 C D などは使用できません。

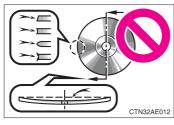
■CD プレーヤー保護機能

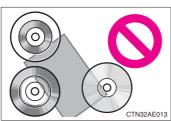
プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できないCD、アダプター

以下のようなCDや 8cm CD アダプター、Dual Discを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

CTN32AE011

●直径 12cm の円形以外の CD

CTN32AE012

●低品質または変形している CD

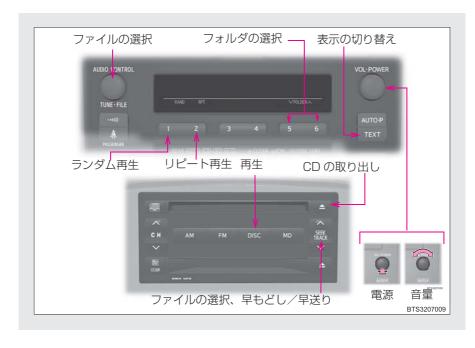
CTN32AE013

●記録部分が透明または半透明の CD

CTN32AE014

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

以下のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない
- 変形したディスクを使用しない

BTS3207004

- 一度に２枚以上の CD を挿入しない

MP3/WMA ディスクの聞き方

MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 243)

早もどし、早送りする

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 244)

フォルダを選ぶ・最初のフォルダに戻る

6 の "Λ"（次フォルダ）または 5 の "V"（前フォルダ）を押して聞きたいフォルダを選ぶ。

最初のフォルダに戻るには、"V" を " ピッ " と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する

を回して、または
の "Λ"（次ファイル）または "V"（前ファイル）を押して、聞きたいファイルを探す。

ファイルを繰り返して再生する

（RPT）を押す。

フォルダを繰り返して再生する

（RPT）を " ピッ " と音が鳴るまで押す。

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生するには

（RAND）を押す。

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生するには

（RAND）を " ピッ " と音が鳴るまで押す。

表示を切り替える

を押す。

押すごとに、次のように表示が切り替わります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。また、ファイナライズ処理されていないディスクは再生できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3/WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、元のファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA（Window Media™ Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1　LAYER3、MPEG2　LSF　LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・ 対応規格
  WMA Ver.7、8、9
・ 対応サンプリング周波数
  32、44.1、48 (kHz)
・ 対応ビットレート
  Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
  Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
  ※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3/WMA ファイルの再生使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

・ ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ ファイルフォーマット：IS 09660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・ 最大ディレクトリ階層：8 階層
・ 最大フォルダ名／ファイル名文字数： 全角 16 文字（半角のみのときは 32 文字）
・ 最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について

MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 ".MP3" または ".wma" がついたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ /WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

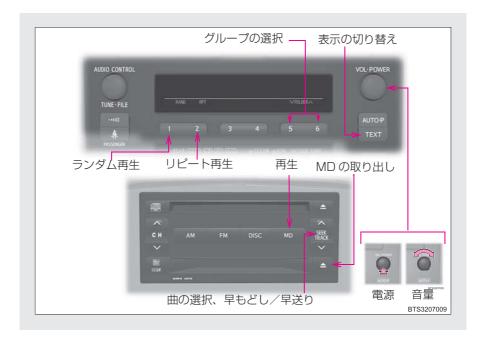
●MP3/WMA の再生について

MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

●拡張子について

MP3/WMA 以外のファイルに ".MP3" または ".wma" の拡張子がついていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3/WMA　は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

■使用できない CD、アダプター（→P. 247）

■CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 248）

MD プレーヤーの使い方

MD を挿入する

MD を 1 枚、挿入する。

MD を取り出す

⏏ を押して MD を取り出す。

グループを選ぶ

6 または 5 を押す。

グループ録音されている MD を再生しているとき、聞きたいグループを選ぶことができます。

曲を選ぶ

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。（→P. 243）

早もどし、早送りする

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 244)

曲の順番をランダム(RAND)再生する

1 (RAND)を押す。

もう一度押すと、解除されます。

全グループの中からランダム(RAND)再生する

1 (RAND)を " ピッ " と音が鳴るまで押す。

グループ録音されている MD を再生しているとき、MD に録音されている全曲の中からランダムに曲を再生します。
もう一度押すと、解除されます。

同じ曲を繰り返して再生する

2 (RPT)を押す。

もう一度押すと、解除されます。

同じグループを繰り返して再生する

2 (RPT)を " ピッ " と音が鳴るまで押す。

グループ録音されている MD を再生しているとき、選択しているグループを繰り返し再生します。
もう一度押すと、解除されます。

表示を切り替える

TEXT を押す。

押すごとに、次のように表示が切り替わります。
曲番および経過時間 → MD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
MD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■エラー表示

“ERROR”：プレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な MD

以下のマークのついた MD が再生できます。

- データ用 MD、Hi-MD などは使用できません。
- MDLPの再生に対応しているため、長時間録音されたMDも再生することができます。また、グループ機能にも対応しています。
- LP4 ステレオ録音した MD を再生したとき、圧縮方式の特性により、ごくまれに瞬間的なノイズが聞こえることがあります。

■プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

注意

■**MD の取り扱いについて**

●ラベルがはがれかけていたり、ネームテープが貼ってあるMDを使用しないでください。プレーヤーが故障したり、MD を取り出せなくなるおそれがあります。

・MD は、直射日光を避けて保管してください。MD がひずみ、使用できなくなるおそれがあります。

●シャッターを無理に開けないでください。MD がこわれるおそれがあります。

■**MD プレーヤーの取り扱いについて**

以下のことをお守りいただかないと、MD が聞けなくなったり、MD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

●MD 挿入口に MD 以外のものを入れない

●MD プレーヤーを分解しない

●一度に２枚以上の MD を挿入しない

■**MD のセットのしかたについて**

無理に MD を押し込むと、故障の原因となります。MD が自動的にセットされないときは、いったん MD を取り出し、MD が軽く止まる位置まで挿し込まれていることを確認してから、再度、MD の中央部を軽く押してください。

快適に聞くために

1 ツマミを押してモードを表示させる

2 ダイヤルを回して以下の設定を変更する

● 音質と音量バランス
(→P. 260)

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

● オートマチックサウンドレベライザー (→P. 261)

設定を変更するには

■ 音質モードの切り替え

を押すごとに次のように切り替わります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質の調整

を回して音質のレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左に回す	右に回す
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	-5 ～ 5		
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

※音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤー/MD プレーヤーそれぞれで調整できます。

■ オートマチックサウンドレベライザー（ASL）

音質モードが ASL のとき、

を右に回すと ASL が LOW → MID → HIGH になり、左に回すと ASL オフになります。

走行時の室内騒音量に応じて音質や音量を自動的に調整します。

3

室内装備の使い方

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。

電源 / モードの切り替え

■ 電源

MODE を押す。

ON のときは、ボタンを " ピッ " と音が鳴るまで押すと OFF になります。

■ モードの切り替え

電源が ON のとき、MODE を押す。

次のように切り替わります。

AM → FM → CD（MP3/WMA）・MD

CD・MD が挿入されていないときは、選択できません。

音量を調整する

⊕ を押す。（大きくする）

⊖ を押す。（小さくする）

ボタンを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

手順 1 MODE を押して、AM または FM を選択する。

手順 2 ∨ または ∧ を押す。

ボタンを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

" ピッ " と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD、MD の操作

■ 選曲するには

手順 1 MODE を押して、CD、MD を選択する。

手順 2 ∨ または ∧ を押して、希望の曲を選択する。

■ グループの選択をするには（グループ録音されている MD 再生時のみ）

手順 1 MODE を押して、MD を選択する。

手順 2 ∨ または ∧ を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のグループを選択する。

MP3/WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3/WMA) を選択する。

手順 2 ∨ または ∧ を押して、希望のファイルを選択する。

■ フォルダの選択をするには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3/WMA) を選択する。

手順 2 ∨ または ∧ を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のフォルダを選択する。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

リヤオーディオコントローラー＊

リヤシートのアームレスト内にあるコントローラーで、オーディオの操作をすることができます。

電源を入れる・切る

PWR を押す。

ON のときは、再度押すと OFF になります。

モードの切り替え

電源が ON のとき、MODE を押す。

次のように切り替わります。

AM → FM → CD（MP3/WMA）・MD

CD・MD が挿入されていないときは、選択できません。

音量を調整する

VOL の ︿ を押す。（大きくする）

VOL の ﹀ を押す。（小さくする）

ボタンを押し続けると、音量を連続して調整できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

放送局を選択するには

手順1 MODE を押して、AM または FM を選択する。

手順2 CH の ∨ または ∧ を押す。

ボタンを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

周波数をかえるには

手順1 MODE を押して、AM または FM を選択する。

手順2 TUNE の ∨ または ∧ を押す。

受信可能な周波数を選択します。

" ピッ " と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD・MD の操作

■ 選曲するには

手順1 MODE を押して、CD・MD を選択する。

手順2 TRACK の ∨ または ∧ を押して、希望の曲を選択する。

■ 曲の早もどし、早送りするには

手順1 MODE を押して、CD・MD を選択する。

手順2 早送りして進めるときは TRACK の ∧ 、もどすときは ∨ を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。

■ グループの選択をするには（グループ録音されている MD 再生時のみ）

手順1 MODE を押して、MD を選択する。

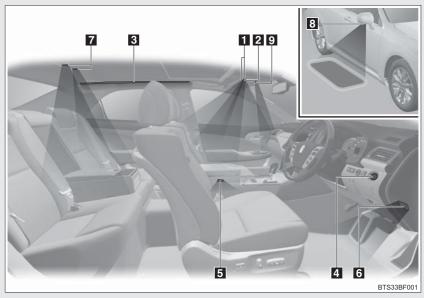
手順2 CH の ∨ または ∧ を押して、希望のグループを選択する。

MP3/WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3/WMA) を選択する。

手順 2 TRACK の ∨ または ∧ を押して、希望のファイルを選択する。

■ ファイルの早もどし、早送りするには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3/WMA) を選択する。

手順 2 早送りして進めるときは TRACK の ∧ 、もどすときは ∨ を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。

■ フォルダの選択をするには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3/WMA) を選択する。

手順 2 CH の ∨ または ∧ を押して、希望のフォルダを選択する。

室内灯一覧

夜間の乗降を補助するために、イルミネーテッドエントリーシステムがついています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態、シフトレバーの位置などによって各部の照明が点灯・消灯・減光します。

1 フロントパーソナルライト（→P. 270）
2 ルームライト（→P. 270）
3 天井サイドイルミネーション*（→P. 272）
4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
5 ドアカーテシライト
6 フロント足元照明
7 読書灯（→P. 271）
8 ドアミラー照明
9 シフト照明（“エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード）

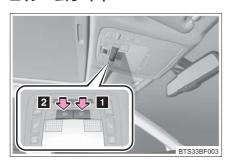
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

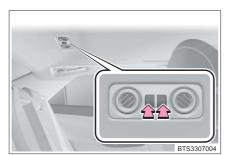
半ドア状態でルームライトのドア連動が ON のときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

フロントパーソナルライト、ルームライト

■ フロントパーソナルライト

点灯 / 消灯

■ ルームライト

1 点灯 / 消灯

2 ドア連動 ON/OFF

知識

■ルームライトについて

スイッチがドア連動 ON のとき、イルミネーテッドエントリーシステムによりルームライトが自動的に点灯、消灯します。

読書灯

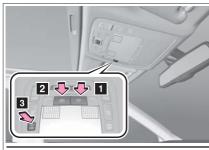
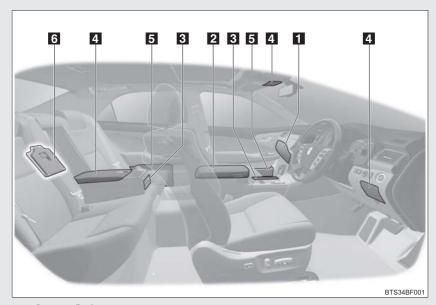
点灯 / 消灯

知識

■読書灯について

ルームライトのドア連動が ON のとき、イルミネーテッドエントリーシステムにより読書灯が自動的に点灯、消灯します。

天井サイドイルミネーション*

BTS33BF005

1 ルームライト、天井サイドイルミネーション
点灯 / 消灯

2 ドア連動 ON/OFF

3 天井サイドイルミネーション
点灯（高輝度）/ 点灯（低輝度）/ 消灯

ルームライトが点灯しているときに輝度の調整ができます。

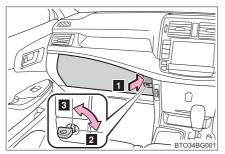
知識

■天井サイドイルミネーションについて

ルームライト、天井サイドイルミネーションが消灯、ドア連動スイッチが ON のときはイルミネーテッドエントリーシステムにより、天井サイドイルミネーションの明るさが 2 段階に変化（高輝度・低輝度）、または消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

1 グローブボックス
2 コンソールボックス
3 カップホルダー
4 小物入れ
5 ドアポケット
6 クールボックス

⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけない物

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

1 開ける（ボタンを押す）

2 メカニカルキーで施錠

3 メカニカルキーで解錠

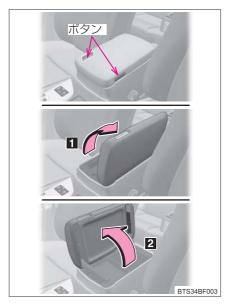
知識

■ **グローブボックスライトについて**

車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとライトが点灯します。

■ **トランクオープナーメインスイッチ**

グローブボックス内にトランクオープナーメインスイッチ（→P. 49）があります。

警告

■ **走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

ボタンを押してフタを持ち上げる。

1 運転席側から開ける

2 助手席側から開ける

知識

■コンソールボックス内のトレイについて

中のトレイをはずすことができます。

⚠ 警告

■**走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

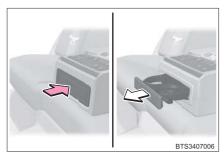
カップホルダー

▶ フロント

BTS34BF005

フタを押す。

▶ リヤ

BTS3407006

カップホルダーを押す。

知識

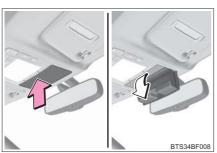
■フロントカップホルダーの仕切りについて

BTS34BF007

仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

⚠ 警告

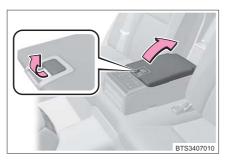
■収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール

BTS34BF008

押して開ける。

▶ 運転席アンダーボックス

ボタンを押して開ける

ETC 装着車は、ETC ユニットが装着されています。

▶ リヤアームレスト

アームレストを倒してレバーを引いて開ける。

警告

■走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

200ｇ以上のものを入れないでください。200ｇ以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット

▶ フロントドア

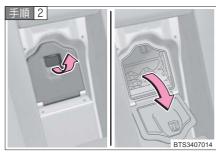
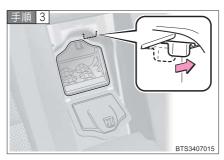
BTS3407011

フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

▶ リヤドア

BTS3407012

警告

■走行中の警告

フロントドアポケットは必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

クールボックス *

アームレストを手前に倒す。

レバーを引きフタを開ける。

冷風開閉口を開ける。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

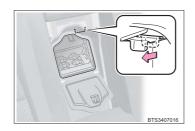
知識

■作動条件

リヤエアコンが作動しているとき

■クールボックスを使用するときは

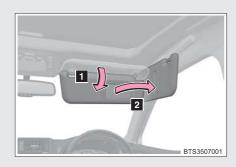
クールボックスを確実に保冷庫として作動させるには、リヤエアコンを LO A/C または HI A/C で使用してください。(→P. 233)AUTO の位置で使用している場合には、自動調整により、リヤエアコンが停止し、保冷機能が損なわれるおそれがあります。

■小物入れとして使うには

保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

■クールボックスに入れるものとして適さないもの

●フタがされていない容器に入ったもの

●割れ物、腐る物、匂いが強い物

警告

■走行中の警告

クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へ回す

バニティミラー

BTS3507002

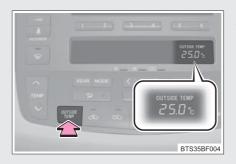
カバーを開けるとライトが点灯します。

時計

1 “ 時 ” を調整する（H）

2 “ 分 ” を調整する（M）

3 “ 分 ” を 00 にする※（:00）

※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
　　　 1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

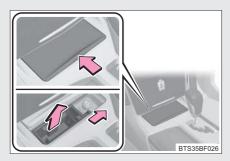
外気温度表示

"エンジン スタート ストップ"スイッチがイグニッション ON モードのとき -30 ℃から 50 ℃の間で表示されます。

BTS35BF004

スイッチを押す。

もう一度押すと、表示がもとにもどります。

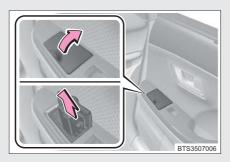
知識

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

灰皿

▶ フロント

フタを押して開けます。

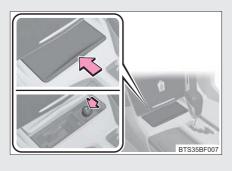
取りはずすときは灰皿の横にあるノブを右にスライドさせ取りはずします。

フタを閉じるにはフタをもう一度前方に押すと閉じることができます。

▶ リヤ

フタを開けます。

取りはずすときは灰皿本体を持って取りはずします。

⚠ 警告

■使用後について

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

■出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

灰皿のフタを開けて、シガレットライターを押し込みます。

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

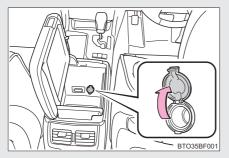
■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを差し込まないでください。
  ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■使用後について

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶ フロント

フタを手前に引いて開ける。

▶ リヤ

フタを手前に引いて開ける。

知識

■使用条件

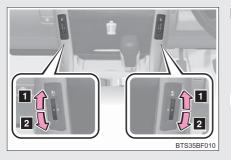
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

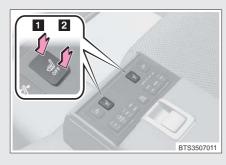
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V でフロントとリヤの合計が 10A（最大消費電力 120W）を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター＆ベンチレーター＊

シートを暖めたり、シートから風を出して通気を良くできます。

■ シートヒーター＆ベンチレーター（フロント席）

1 シートを暖める

ノブを回すとインジケーターが点灯し、赤色の方向に回すほど温度が高くなります。

2 シートから風を出す

ノブを回すとインジケーターが点灯し青色の方向に回すほど風量が大きくなります。

■ シートヒーター（リヤ席）

1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
シートが暖まると自動的に「弱」になります。

2 OFF

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
・皮膚の弱いかた
・疲労の激しいかた
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

●シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

⚠注意

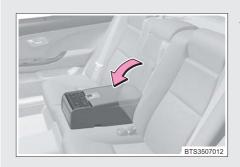
■シートヒーター＆ベンチレーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

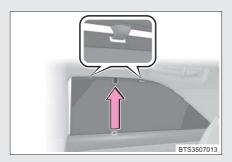
エンジンが停止しているときは使用しないでください。

アームレスト

BTS3507012

倒して使用します。

知識

■アームレストトレイ*

BTS3407017

アームレスト前部をトレイとして使用できます。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

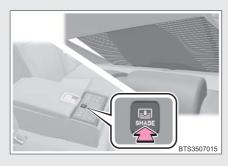
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤサンシェード*

■ リヤドアサンシェード

BTS3507013

ツマミを持って引き出し、フックにかけます。

もどすときはフックからはずし、収納します。

■ 電動リヤサンシェード

▶ フロント側スイッチ

BTS35BF014

上昇 / 下降

▶ リヤ側スイッチ

BTS3507015

上昇 / 下降

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■電動リヤサンシェードの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジンスタートストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ ” スイッチを OFF にしたあとでも、約 60 秒間電動リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。
ただし下記のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でエンジンを切った場合は、再びエンジンをかけて 15 km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■リバース連動機能が働かない場合

状況によってはリバース連動機能が働かない場合があります。その場合、スイッチを押して、リヤサンシェードを上昇・下降させてください。

警告

■リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐため

エンジンがかかっていない状態ではリヤサンシェードを繰り返し操作しないでください。

■正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

●モーターや他の部分に負荷をかけすぎないようにしてください。

●開閉のさまたげになる部分に物を置かないでください。

●リヤサンシェードにものを貼らないでください。

●溝をきれいに保ってください。

●長時間操作を続けないでください。

アシストグリップ&コートフック

▶ ムーンルーフ装着車

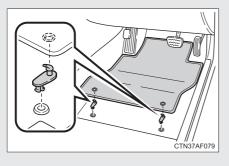
BTS3507016

▶ ムーンルーフ非装着車

BTS3507017

警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

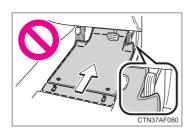
アシストグリップやコートフックに過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

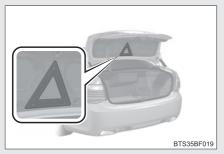
お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない。
- 運転席専用のフロアマットを使用する。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない。

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う。
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する。

トランク内装備

■ 三角停止警告板

BTS35BF019

緊急時や夜間時にトランクを開けておくだけで後方の車両に注意をうながすことができます。

■ ラゲージネット

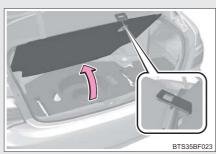
BTS3507020

ネットを使用してトランク内を仕切ることができます。

■ ラゲージフック

BTS35BF021

■ ラゲージマット

BTS3507022

レバーを引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。

BTS35BF023

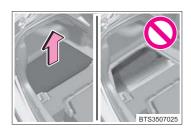
レバーをトランクの縁へかけることができます。

■ ラゲージアンダートレイ

BTS35BF024

三角表示板※などを収納することができます。

※三角表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■三角停止警告板について

高速道路や自動車専用道路で故障して停車した場合は停止表示板または停止表示灯を使用してください（法的にも義務づけられています）。

■ラゲージアンダートレイについて

三角表示板を収納する場合、三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

■トランク内左側のスペースについて

このスペースは高温になります。収納スペースとして使用しないでください。

注意

■トランクを閉めるときは

ラゲージマットのレバーをトランクの縁にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります。

お手入れのしかた　4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラー*がひっかかり、洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■アルミホイール

- ●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- ●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

- ●シリコーンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す。
- ●晴天時に太陽光を 1・2 日間当てる。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管およびデュアルエキゾーストテールパイプ（ディフューザー付）について

排気管およびデュアルエキゾーストテールパイプは排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

■後方プリクラッシュセーフティシステム*について

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、トヨタ販売店にご相談ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

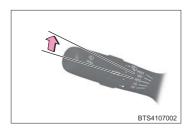
●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO になっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

● 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る

● スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける

● 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。

● 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 68)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤを濡らさないでください。(→P. 108)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■**清掃するとき使用する溶剤について**

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■**革の傷みを避けるために**

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

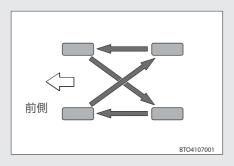
■**床に水がかかると**

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■**リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

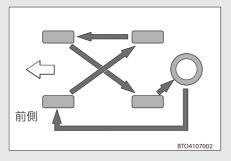
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

■**シート肩口スピーカー装着車について**

スピーカーグリル部にジュースなどをこぼしたり、シートクリーナーや消臭剤などを吹きつけたりしないでください。オーディオの音質の劣化の原因となるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、4WD 車は 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

▶ スペアタイヤが応急用タイヤの場合

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

▶ スペアタイヤが標準タイヤの場合

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm^2)]
	前後輪
215/60R 16 95H	250 (2.5)
215/55R 17 93V	230 (2.3)
225/45R 18 91W	

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤの保管について

タイヤを車両からはずして保管する際は、ビニール袋に入れるなどして、水や直射日光を避けて保管してください。

警告

■日常点検について

- ●日常点検として必ずタイヤを点検してください。
- ●タイヤの点検は法律で義務付けられています。
  タイヤは以下の点について点検してください。
  - ・タイヤの空気圧
  - ・タイヤの亀裂・損傷の有無
  - ・タイヤの溝の深さ
  - ・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

警告

■**指定空気圧について**

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または P. 417 で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、応急用タイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

■**異常があるタイヤの使用禁止**

● 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

● 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因になることがあります。

警告

■タイヤのサイズ、種類について

●タイヤはすべて指定サイズで、同一のサイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤ空気圧の点検は必ず行ってください。

・４輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を４輪とも均等にし、寿命を延ばすためにタイヤのローテーションを行ってください（→P. 308）

●ディスクホイールを交換するときも指定以外のディスクホイールを装着しないでください。

警告

●指定以外のタイヤおよび 4 輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS &ブレーキアシスト
・VSC
・クルーズコントロール*
・AFS
・ＬＫＡ *
・ナビゲーションシステム*
・バックガイドモニター*
・TRC
・レーダクルーズコントロール*
・クリアランスソナー*
・PCS *
・NAVI・AI-SHIFT *
・サイドモニター*
・VDIM
・インテリジェントパーキングアシストシステム*
・AVS *

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・4WD システム*

■冬用タイヤについて

冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じサイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

■摩耗限度について

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

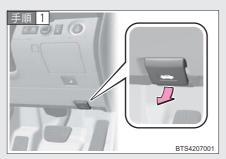
※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

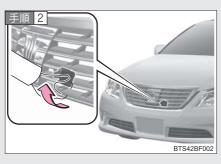
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**超偏平タイヤ（225/45R18 91W *）について**

超偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に開いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■**タイヤ空気圧が低いとき**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

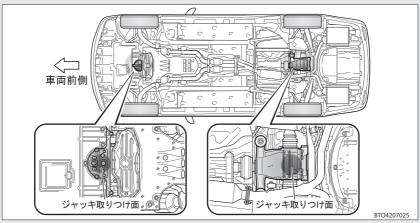
■**エンジンルームを点検したあとは**

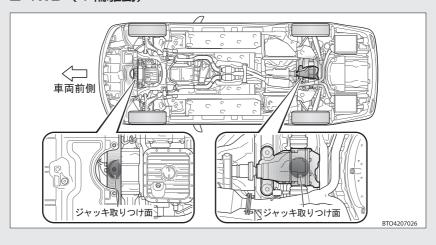
エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

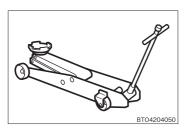
⚠ 注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などで触れない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

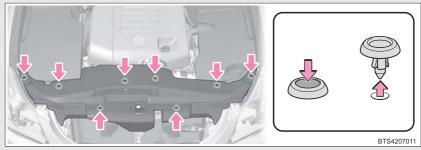
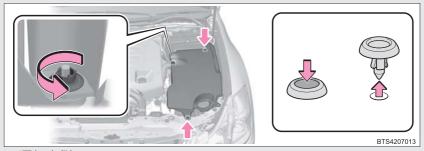
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取りつけてください。
正しい位置に取りつけないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

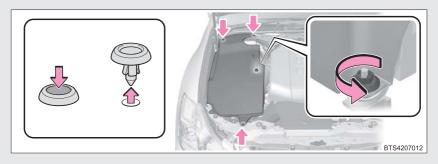
■ FR（後輪駆動）

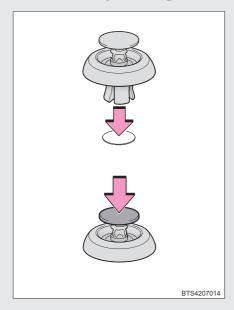
■ 4WD（4 輪駆動）

警告

■車両を持ち上げるときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取りつけてください。
  ガレージジャッキを正しく取りつけずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ フロント側

▶ 助手席側

▶ 運転席側

■ クリップの取りつけ方

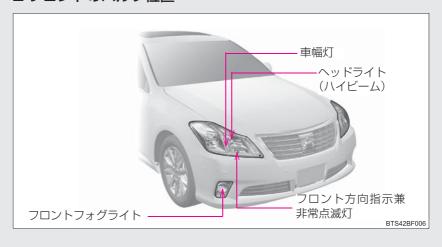
警告

■けがを防ぐために

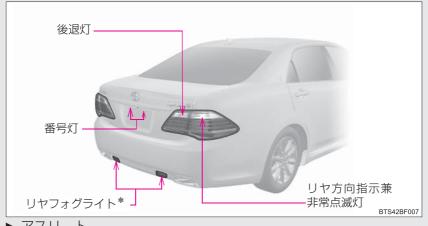
エンジンルームカバーを取りはずす前に、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■エンジンルームカバーを取りはずすときは

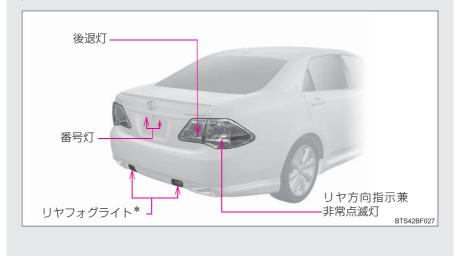
クリップをエンジンルームの中に落とさないよう注意してください。

■エンジンルームカバーを取りつけたあとは

もとの場所に確実に取りつけられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

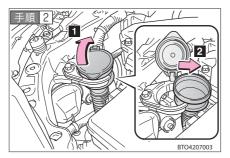
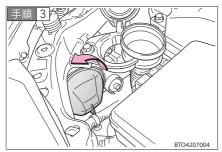
■ 電球の用意

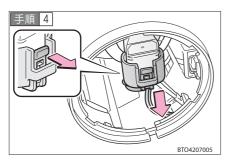
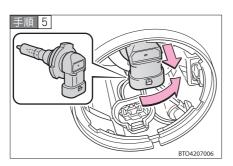
切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 418）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

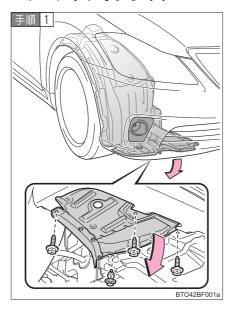
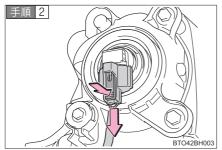
▶ アスリートを除く

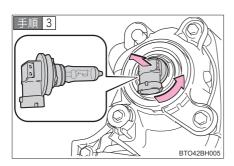
▶ アスリート

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト （ハイビーム）

手順 1 エンジンルームのカバーをはずす。（→P. 320）

助手席側ではウォッシャー液補給口の位置を移動する。

1 キャップを開ける

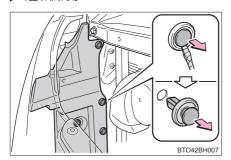
2 補給口をずらす

カバーを取りはずす。

コネクタを取りはずす。

電球を取りはずす。

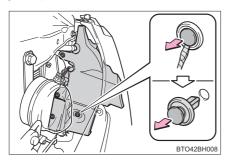
手順 6 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロントフォグライト

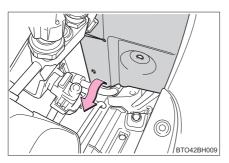
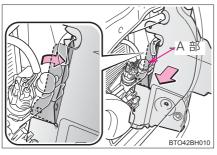
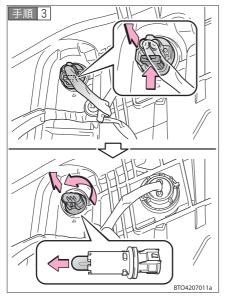
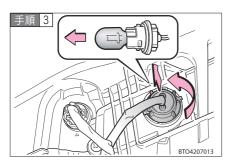
スクリューとクリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる。

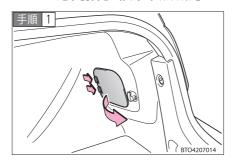
コネクタを取りはずす。

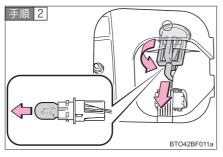
電球を取りはずす。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

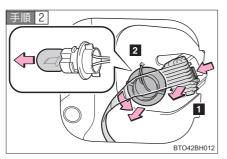
■ 車幅灯 / フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1 フロントのエンジンカバーをはずす。(→P. 320)

手順 2 カバーをはずす。

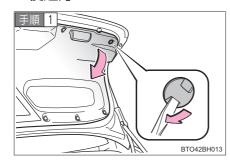
▶ 運転席側

クリップをはずし、カバーを取りはずす。

▶ 助手席側

1 クリップをはずす。

2 カバー下部を配管より手前に引き出す。

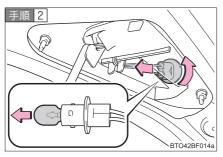
3 A 部を奥へ折り曲げ、カバーを手前に引き出し、取りはずす

車幅灯を交換するときは、コネクターを取りはずし、電球を取りはずす。

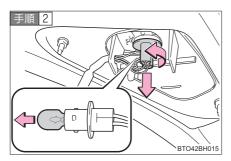
フロント方向指示灯兼非常点滅灯を交換するときは、ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

トランクを開け、カバーを取りはずす。

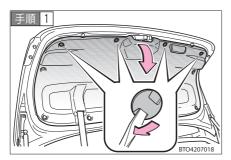
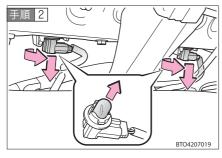
▶ アスリートを除く

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

▶ アスリート

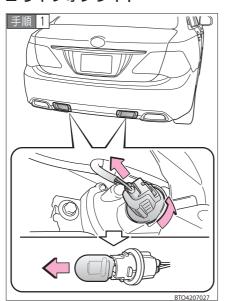
コネクター（1）を取りはずしてから、ソケット（2）を取りはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 後退灯

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる。

▶ アスリートを除く

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

▶ アスリート

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 番号灯

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる。

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ リヤフォグライト*

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドライト（ロービーム）
- ● 方向指示灯兼非常点滅灯（ドアミラー部）
- ● 制動灯
- ● 尾灯
- ● ハイマウントストップライト

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドライト（ハイビーム）を交換したときは

必ずウォッシャー液補給口をしっかり取りつけてください。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取りつけてください。取りつけが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
  瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因となることがあります。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取りつけられていることを確認ください。

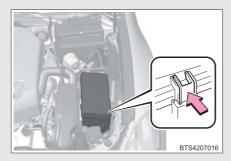
ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする。

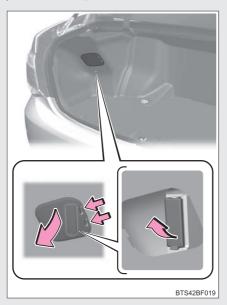
手順 2 エンジンルーム A のヒューズボックスを開けるときは、エンジンルームカバーのフロント側と助手席側をはずす。(→P. 320)

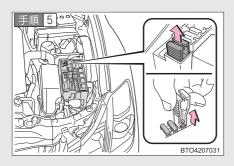
手順 3 ヒューズボックスを開ける。

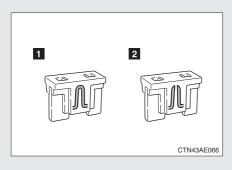
▶ エンジンルーム A

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム B

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

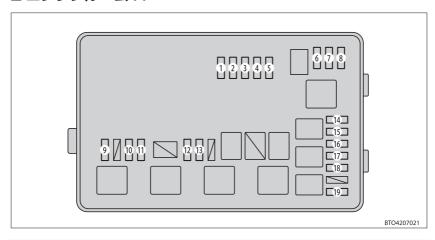
▶ 運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす。

▶ 助手席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす。

▶ トランク内

トランクを開け、カバーを取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずす。

手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 338)で確認する。

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

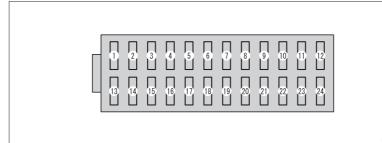
手順 6 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

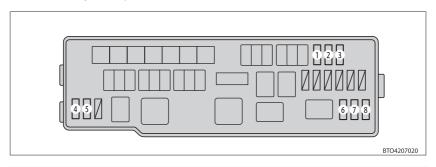
2 ヒューズ切れ

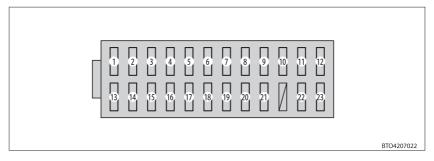
ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

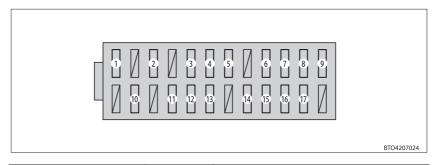
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム A

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO,2	10 A	エンジンコントロールシステム
2	HORN	10 A	ホーン
3	A/F	15 A	排気システム
4	WASH-S	5 A	レーンキーピングアシスト
5	F/PMP	20 A	フューエルポンプ
6	SPARE	—	スペア
7	SPARE	—	スペア
8	SPARE	—	スペア
9	INJ	20 A	エンジンコントロールシステム
10	EFI MAIN	25 A	エンジンコントロールシステム
11	ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
12	H-LP LH	15 A	ヘッドライト（ロービーム）左
13	H-LP RH	15 A	ヘッドライト（ロービーム）右
14	H-LP LH HI	15 A	ヘッドライト（ハイビーム）左
15	H-LP RH HI	15 A	ヘッドライト（ハイビーム）右
16	A/C COMP	7.5 A	エアコン

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	FR FOG	10 A	フロントフォグライト
18	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯
19	IG2	10 A	点火系

■ エンジンルーム B

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IG2 MAIN	20 A	各 ECU 電源
2	D/C CUT	20 A	室内灯、各 ECU 電源
3	ECU-B	10 A	EPS、VGRS
4	FR DEICER	25 A	フロントワイパーデアイサー
5	CDS	10 A	コンデンサー
6	WIP-S	7.5 A	ミリ波レーダー
7	DOME	10 A	室内照明
8	MPX-B	10 A	各 ECU 電源

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	STOP	7.5 A	制動灯
2	TV	10 A	ナビゲーションシステム
3	PWR SEAT FR	30 A	フロントパワーシート右側
4	TI & TE	20 A	マイコンプリセットステアリング
5	ACC	7.5 A	アクセサリー電源
6	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
7	WASHER	20 A	ウォッシャー
8	WIPER	30 A	ワイパー
9	AIR SUS	20 A	AVS
10	SEAT HTR FR	15 A	フロントシートヒーター右側
11	RH-IG	10 A	各 ECU 電源
12	RH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR FR	30 A	フロントドア右
14	DOOR RR	30 A	リヤドア右
15	AM2	7.5 A	EFI コンピューター
16	SECURITY	7.5 A	EFI コンピューター
17	STR LOCK(RHD)	20 A	EFI コンピューター
18	DCM	5 A	通信モジュール
19	IGN	10 A	EFI コンピューター
20	FUEL OPN(RHD)	10 A	フューエルオープナー
21	S/ROOF	20 A	ムーンルーフ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
22	P/W-B(RHD)	5 A	パワーウインドウ
23	MULTIMEDIA	10 A	オーディオ、ナビゲーションシステム
24	OBD(RHD)	7.5 A	チェックコネクター

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/W-B(LHD)	5 A	未使用
2	LH J/B-B	7.5 A	ボデー系システム
3	AM1	5 A	未使用
4	PWR SEAT FL	30 A	フロントパワーシート左
5	CIG	15 A	シガレットライター
6	D/L NO,1	25 A	ドアロック
7	SEAT HTR FL	15 A	シートヒーター左
8	AFS	7.5 A	AFS
9	NV-IR	10 A	未使用
10	BACK UP	7.5 A	後退灯
11	LH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
12	LH-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR RL	30 A	リヤドア左
14	DOOR FL	30 A	フロントドア左
15	D/L NO,2	25 A	ドアロック
16	RAD NO,3	15 A	オーディオ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	HAZ	15 A	非常点滅灯
18	STR LOCK(LHD)	20 A	—
19	GAUGE	7.5 A	メーター
20	OBD(LHD)	7.5 A	—
21	PANEL	7.5 A	イルミネーション
22	A/C	7.5 A	エアコン
23	FUEL OPN(LHD)	10 A	—

■ トランク内

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	RR A/C	10 A	リヤエアコン
2	PSB	30 A	プリクラッシュセーフティシステム
3	PTL	30 A	トランククローザー
4	RR FOG	10 A	リヤフォグライト
5	SEAT HTR RR	15 A	リヤシートヒーター
6	RR ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
7	RR SEAT	10 A	未使用
8	BACK UP	7.5 A	—
9	RR-IG	10 A	各 ECU 電源
10	CAPACITOR	10 A	—
11	RAD NO,1	30 A	オーディオ
12	TRK OPN	7.5 A	未使用

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
13	RAD NO,2	30 A	オーディオ
14	PWR SEAT RR	30 A	リヤパワーシート
15	RL CCS	30 A	―
16	RR CCS	30 A	―
17	RR J/B-B	10 A	デジタルテレビ

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 322)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

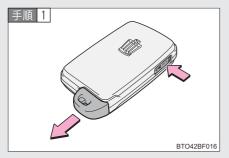
警告

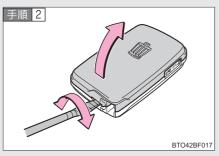
■車の故障や、車両火災を防ぐために

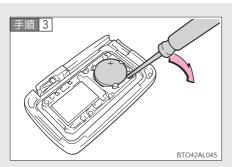
次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

メカニカルキーを抜く。

カバーをはずす。

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取りつけます。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

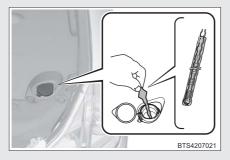
キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■取りはずした電池と部品について

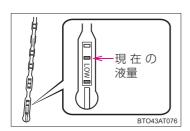
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれを当ててからはずしてください。
  カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

BTS4207021

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

BTO43AT076

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

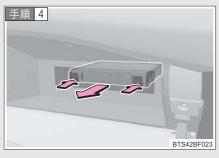
ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

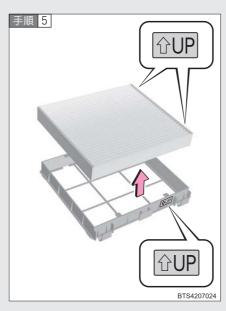
■**ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

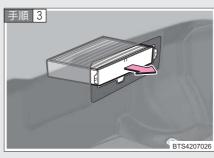
■ エアフィルターの交換

手順 1 内外気切り替えスイッチを押し、内気循環にする。

外気導入のままだと、内外気ドアによりフィルターケースを取りはずすことができません。

手順 2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする。

グローブボックスを開きカバーをはずす。

ツメを押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす。

フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取りつけます。

手順 6 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ エアピュリファイヤーのフィルター交換

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする。

トランクを開けフィルターカバーを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

▶ エアフィルター

清掃：15,000km[7,500km※]ごと

交換：30,000km[15,000km※]ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

▶ エアピュリファイヤーのフィルター

交換：15,000km（ただし、1年をこえないこと）

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

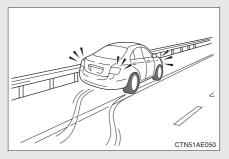
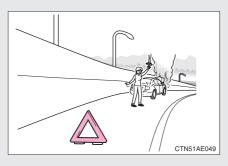
トラブルが起きたら 5

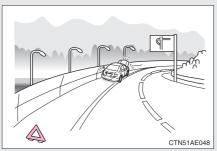
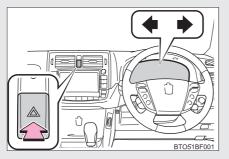
5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

事故のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 355)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

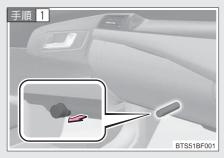
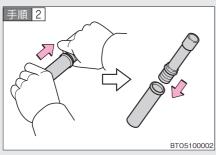
CTN51AE049

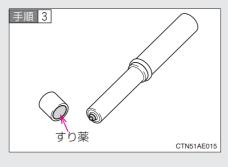
緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 356)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

● エンジンはかかるが、車が動かない

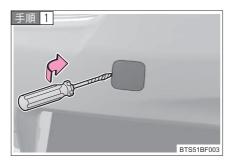
● 異常な音がする

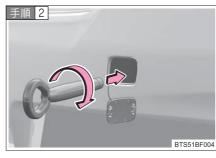
■ けん引されるときは

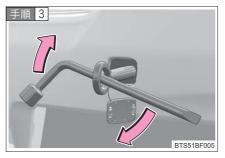
車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布をつける。

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取りつけ方

マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす。

けん引フックを穴に差しこみ軽く締める。

ホイールナットレンチを使い確実に取りつける。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 384

警告

■けん引フックを車両に取りつけるとき

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取りつけてください。
指定位置にしっかり取りつけないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

⚠警告

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

⚠注意

■**車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

●ワイヤーロープは使用しない

●速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する

●前進方向でけん引する

●サスペンション部などにロープをかけない

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

⚠ 注意

■固縛用フックについて

固縛用フックは、船舶固縛で車両を輸送するときに使用するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。
（車両仕様等により、固縛用フックの個数が、イラストと異なる場合があります。）

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 運転席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。
（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）※** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。（→P. 374）

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
− +	**充電警告灯** 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(エンジン警告灯マーク)	**エンジン警告灯** ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
(SRSエアバッグ警告灯マーク)	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
(ABS)	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
(パワーステアリング警告灯マーク)	**パワーステアリング警告灯** ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
PCS （点滅）	**PCS 警告灯*** ・プリクラッシュセーフティシステムの異常
AFS OFF （点滅）	**AFS OFF 表示灯** ・AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
CRUISE （点滅）	**クルーズコントロール表示灯** ・クルーズコントロールシステム / レーダークルーズコントロールシステムの異常
LKA （点滅）	**LKA 表示灯*** ・レーンキーピングアシストの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

警告

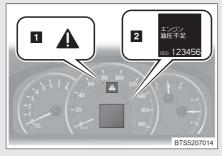
■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。ハンドルを操作して通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	**開いているドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 11 L）	**燃料を補給**
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 370

※　**運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン 油圧不足 ODO 123456	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD システムチェック ODO 123456	**4WD システム*の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ステアリング ロック システムチェック ODO 123456	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
VSC システムチェック ODO 123456	**TRC、VSC の異常** 警告ブザーが鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
PCS システムチェック ODO 123456 PCS（点滅） ⚠	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。
クルーズ システムチェック ODO 123456 CRUISE（点滅） ⚠	**クルーズコントロールシステム＊、レーダークルーズコントロールシステム＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。 安全な場所にお車を停め、エンジンを再度かけなおしてクルーズコントロールシステム、レーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。
VGRS システムチェック ODO 123456 ⚠	**VGRS ＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ナビ・ブレーキ アシスト システムチェック ODO 123456 ⚠	**ナビ・ブレーキアシスト＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。 ナビ・ブレーキアシストについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ブレーキランプ システムチェック ODO 123456	**ブレーキランプ制御システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
ソナー チェック ODO 123456	**クリアランスソナー*の異常** 異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 クリアランスソナーについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席ドアオープン ODO 123456	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい ODO 123456 （点滅）	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5 km/h 以上になった** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
ムーンルーフが開いています ODO 123456 （点滅）	**ムーンルーフ*が確実に閉まってない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	ムーンルーフを閉める
エンジンオイル不足 ODO 123456	**エンジンオイルの不足** 警告ブザーが鳴ります。	エンジンオイル量を点検し、エンジンオイルを補給する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
PCS 現在使用 できません ODO 123456 PCS（点灯）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない**	グリルまたはセンサーの汚れを取り除く プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
レーダー汚れ 清掃必要 ODO 123456 CRUISE（点滅）	**レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
悪天候 クルーズ できません ODO 123456 CRUISE（点滅）	**レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可** 警告ブザーが鳴ります。	ワイパーを止めるか低速作動にかえる スノーモードを解除する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
50 km/h ODO 123456 （点滅）	**（レーダークルーズコントロール*の車間制御中）衝突の危険性がある** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
ブレーキ！ ODO 123456	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す**	ブレーキで減速する
ソナー汚れ ODO 123456	**クリアランスソナー*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。クリアランスソナーについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。	汚れおよび氷などを取り除く
LKA システムチェック ODO 123456 LKA（点滅）	**LKA *の異常** 警告ブザーが鳴ります。	エンジン再始動後、LKA を再起動する
LKA 現在使用できません ODO 123456	**・白線認識カメラが作動範囲外の高温状態** **・EPS の作動制限中** 警告ブザーが鳴ります。	LKA を再起動する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常にゆっくりした車のとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルが踏まれたとき

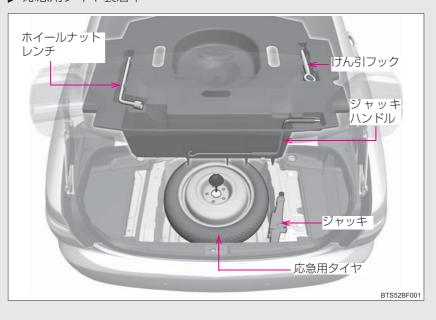
ただちに処置してください

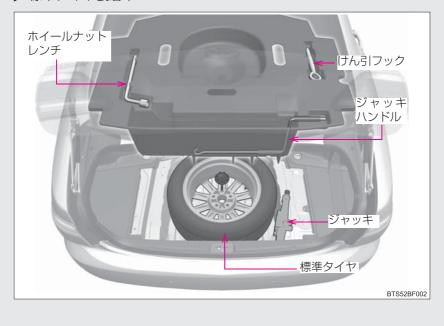
それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

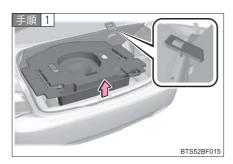
<table>
<tr><th>車内警告ブザー</th><th>車外警告ブザー</th><th>警告メッセージ</th><th>警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>1 回</td><td>なし</td><td>キーが
見つかりません
ODO 123456
(点滅)</td><td>電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした</td><td>電子キーを携帯する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">3 回</td><td rowspan="2">キーが
見つかりません
ODO 123456
(点滅)</td><td>“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した</td><td>電子キーを車内にもどす</td></tr>
<tr><td>シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された</td><td>“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする
または電子キーを車内にもどす</td></tr>
</table>

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	1回	キーが見つかりません ODO 123456 電源をOFFして下さい ODO 123456 (交互に表示) (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1回	なし	キーが見つかりません ODO 123456 (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい ODO 123456 (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする

<table>
<tr><th>車内警告ブザー</th><th>車外警告ブザー</th><th>警告メッセージ</th><th>警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>連続音</td><td>連続音</td><td>Pレンジに
入れて下さい
ODO 123456
キーが
見つかりません
ODO 123456
（交互に表示）
（点滅）</td><td>シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタートストップ”スイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された</td><td>・シフトレバーをPにする。
・電子キーを車内に入れる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1回</td><td rowspan="2">連続音</td><td rowspan="2">車室内に
キーがあります
ODO 123456
（点滅）</td><td>車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした</td><td rowspan="2">車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する</td></tr>
<tr><td>車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした</td></tr>
</table>

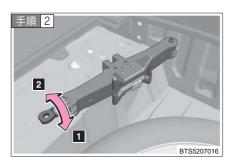
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れて下さい ODO 123456 (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したした際、車室内でキーを検出できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れる
1 回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい ODO 123456 (点滅)	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジン始動しようとしている	シフトレバーを P に入れてからエンジンを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジに入れてエンジンスイッチを押して下さい ODO 123456 (点滅)	シフトレバーが P もしくは N 以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたい場合は、シフトレバーを P にし“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
なし	なし	バッテリー 保護の為 自動電源 OFFしました ODO 123456	自動電源 OFF 機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか ODO 123456	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 344)
1 回	なし	始動時は ブレーキを踏み ながら エンジンスイッチ を押して下さい ODO 123456 (点滅)	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードに 2 回以上した	ブレーキを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのエンジン始動の方法で(→P. 400)“エンジン スタート ストップ”スイッチに電子キーで触れた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ステアリングロック未解除 ODO 123456 （点滅）	“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備えつけのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 308 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

▶ 応急用タイヤ装着車

▶ 標準タイヤ装着車

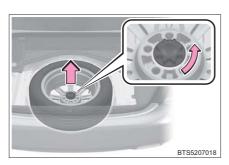
ジャッキとスペアタイヤの取り出しかた

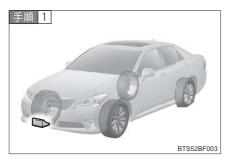
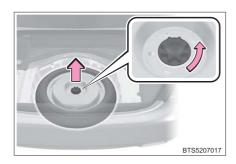
ラゲージマットを持ち上げ、レバーをトランクの縁にかけておき、ラゲージアンダートレイを取りはずします。

ジャッキを取り出す。

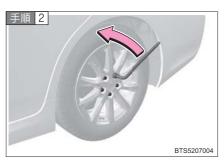
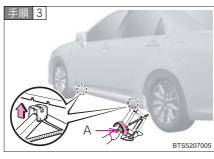
1 締める

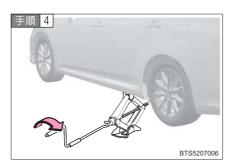
2 ゆるめる

格納するときはジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

手順 3 スペアタイヤを取りはずす。

止め具を取りはずし、タイヤを取り出します。
スペアタイヤを取り出すときは、タイヤの両端をしっかりと持って出し入れしてください。（スペアタイヤ単体重量：約 20kg）

▶ 応急用タイヤ装着車

▶ 標準タイヤ装着車

パンクしたタイヤの交換

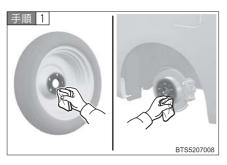
BTS52BF003

輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

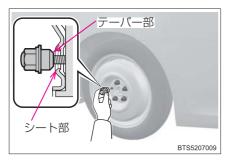
BTS5207004

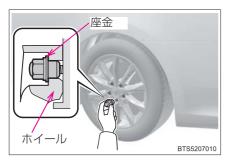
ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

BTS5207005

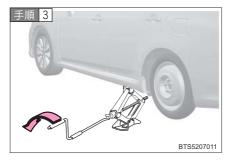
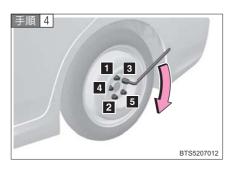
ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

タイヤの取りつけ

ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す。

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで回す。

車体を下げる。

図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける。

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 標準タイヤ装着車では、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取りつけます。

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

知識

■応急用タイヤ * について

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P. 417）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取りつけ、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

ケガを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重大な障害につながるおそれがあります。

■**スペアタイヤを収納するときは**

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

■**応急用タイヤ * を使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

■**応急用タイヤ * 使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■応急用タイヤ*装着中は

●正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS &ブレーキアシスト
・VSC
・クルーズコントロール*
・AFS
・ＬＫＡ *
・ナビゲーションシステム*
・バックガイドモニター*
・TRC
・レーダクルーズコントロール*
・クリアランスソナー*
・PCS *
・NAVI・AI-SHIFT *
・サイドモニター*
・VDIM
・インテリジェントパーキングアシストシステム*
・AVS *

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**応急用タイヤ * 装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■**応急用タイヤ * 使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 144）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 146）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 144）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→P. 96）

■スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 402）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

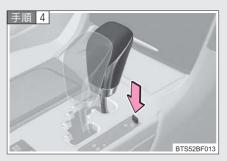
■スターターが回らない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 402）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 シフトレバーを P に入れる。

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを長押しする。

上記の手順にしたがいエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 " エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードにする。

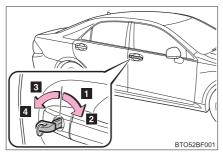
手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

BTS52BF013

シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

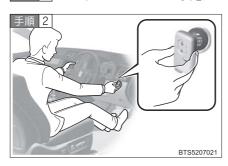
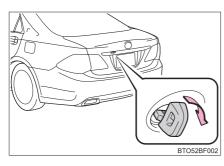
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
（→P. 24）

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 40）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けること、エンジンを始動することができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

▶ ドア

1 全ドア施錠
2 ドアガラス・ムーンルーフが閉まる（長回し）
3 全ドア解錠
4 ドアガラス・ムーンルーフが開く（長回し）

▶ トランク

メカニカルキーを時計回りに回して開ける

エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。

手順 2 電子キーまたはカードキーのクラウンエンブレム面で “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れる。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

手順 3 次の操作を行う。

モードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→P. 144)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

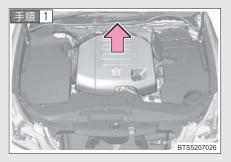
知識

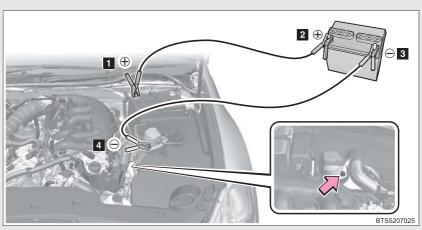
■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をお勧めします。(→P. 344)

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

ナビゲーションシステムの画面上でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルすることができます。
スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルされていないことも確認してください。(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリーつき救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

エンジンルーム中央のカバーをはずす。

手順 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項

●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、または メカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーあがり前の “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚·衣服·車体につかないようにする
- ●バッテリーに寄りかかったりしない
- ●誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
  また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- ●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

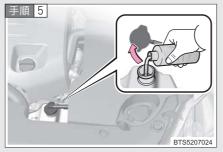
蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを止める。

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 196)

警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

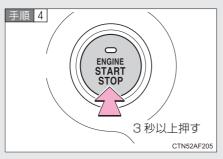
- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

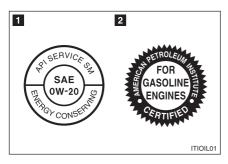
ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両の仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

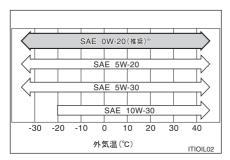
燃料

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	2GR-FSE 3GR-FSE	71
無鉛レギュラーガソリン	4GR-FSE	

エンジンオイル

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">銘柄</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20 ※
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 10W-30
トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20
—API SL, EC, SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30
—API SL, EC, SAE 10W-30</td><td>FR</td><td>5.9</td><td>6.3</td></tr>
<tr><td>4WD</td><td>6.0</td><td>6.4</td></tr>
</table>

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	2GR-FSE	9.2
	3GR-FSE	9.4
	4GR-FSE	

オートマチックトランスミッション

銘柄		エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード　WS	FR	2GR-FSE	7.9
		3GR-FSE	8.0
		4GR-FSE	7.5
	4WD	3GR-FSE	9.8
		4GR-FSE	9.4

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

銘柄（推奨粘度）			容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	FR	2GR-FSE	1.35
		3GR-FSE 4GR-FSE	1.15
	4WD	リヤ	1.15
		フロント	0.70

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目		基準値 [mm]
遊び		1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	2GR-FSE	60 以上
	ロイヤルサルーン	62 以上
	2GR-FSE を除くアスリート	64 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	250 (2.5)	
	215/55R17 93V	230 (2.3)	
	225/45R18 91W		
応急用タイヤ	T155/70D17 110M	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト 　ハイビーム（バルブタイプ：HB3） 　ロービーム（ディスチャージヘッドライト）	 60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H8）	35
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
	リヤフォグランプ*	21
	ドアミラー照明	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	フロントパーソナルライト	8
	ルームライト	8
	読書灯	8
	天井間接照明*	LED ※
	トランクライト	3.8
	フロント足元照明	LED ※
	ドアカーテシライト	5
	グローブボックスライト	LED ※
	バニティライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

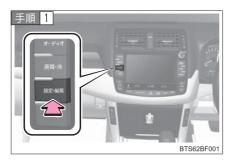
車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GRS200	4GR-FSE （2.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）
GRS201		4WD（4 輪駆動）
GRS202	3GR-FSE （3.0L ガソリン）	FR（後輪駆動）
GRS203		4WD（4 輪駆動）
GRS204	2GR-FSE （3.5L ガソリン）	FR（後輪駆動）

6

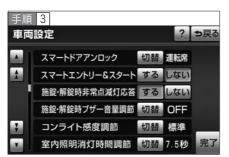
車両の仕様

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両カスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

▶ ナビゲーションシステム装着車

ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

ナビゲーション画面で車両カスタマイズ設定をする

「設定・編集」スイッチを押す。

「車両」にタッチし設定したい項目にタッチ。

各項目を設定し「完了」にタッチ。

「する」、「しない」、または「切替」にタッチします。

「切替」にタッチしたときは次に表示された画面で設定値を選択します。

「完了」にタッチすると設定変更中画面が表示されます。

設定変更中は他の操作を行わないでください。

「完了」にタッチせずに、他の画面に切り替えると設定は変更されません。

車両カスタマイズ設定一覧

車両カスタマイズ設定はトヨタ販売店で変更することができます。ナビゲーションシステム装着車では、画面操作により設定を変更できる機能もあります。
また、車両側のスイッチ操作のみで設定できる機能もあります。

1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定可
2 車両側のスイッチ操作等で設定可
3 トヨタ販売店で設定可

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td rowspan="2">スマートエントリー&スタートシステム
(→P. 29)</td><td>スマートエントリー&スタートシステム</td><td>する</td><td>しない</td><td>○</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>解錠ドアの選択</td><td>全席</td><td>運転席</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ワイヤレスドアロック
(→P. 41)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>する</td><td>しない</td><td>ー</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスリモコンの2回操作の解錠</td><td>しない</td><td>する</td><td>○</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ワイヤレスリモコンのトランクスイッチを押しての解錠操作</td><td rowspan="4">1回長押し</td><td>1回短押し</td><td rowspan="4">ー</td><td rowspan="4">ー</td><td rowspan="4">○</td></tr>
<tr><td>2回押し</td></tr>
<tr><td>1回長押し(初期設定時よりもさらに長押し)</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
</table>

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
スマートエントリー&スタートシステム（→P. 29）とワイヤレスドアロック（→P. 41）共通	作動の合図（ブザー音量調整）	7	6 ～ 1 OFF	○	―	○
	作動の合図（非常点滅灯）	する	しない	○	―	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	―	―	○
	半ドア警告ブザー	する	しない	―	―	○
ドアロック（→P. 43）	車速感応式ドアロック	あり	なし	○	○※	○
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり	○	○※	○
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	○※	○
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	○※	○
	メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	―	○
パワーウインドウ（→P. 85）	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	―	―	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	―	○

※ナビゲーションシステム装着車を除く

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ムーンルーフ（→P. 88）	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	○
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ	—	—	○
			閉作動のみ			
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ	—	—	○
			閉作動のみ			
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
オートアラーム（→P. 97）	メカニカルキーを使って解錠したときの作動	なし	あり	—	—	○
ライト自動点灯・消灯システム（→P. 169）	ライトセンサーの感度調整	0	－2～+2 ※	○	—	○
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○

※ －側：点灯が遅くなる
＋側：点灯が早くなる

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td rowspan="11">イルミネーション
(→P. 268)</td><td rowspan="3">消灯までの時間</td><td rowspan="3">15 秒</td><td>7.5 秒</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">ー</td><td rowspan="3">○</td></tr>
<tr><td>30 秒</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td>“ エンジン スタートストップ ” スイッチOFF 後の作動</td><td>あり</td><td>なし</td><td>ー</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ドアミラー照明の点灯時間</td><td rowspan="3">15 秒</td><td>7.5 秒</td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">ー</td><td rowspan="3">○</td></tr>
<tr><td>30 秒</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td>足元照明の点灯</td><td>あり</td><td>なし</td><td>ー</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>シフト照明の点灯</td><td>あり</td><td>なし</td><td>ー</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>天井間接照明の減光制御</td><td>あり</td><td>なし</td><td>ー</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>接近時のルームライトの点灯</td><td>あり</td><td>なし</td><td>ー</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">エアコン
(→P. 224)</td><td>外気導入と内気循環の切り替えが AUTOモード時の排ガスセンサーの感度の調節</td><td>0</td><td>－3～+3※</td><td>○</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>AUTO スイッチをON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動してON になる</td><td>する</td><td>しない</td><td>○</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
<tr><td>AUTO スイッチがON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える</td><td>する</td><td>しない</td><td>○</td><td>ー</td><td>○</td></tr>
</table>

※ ー側：内気への切り替えが遅くなる

＋側：内気への切り替えが早くなる

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td rowspan="7">その他</td><td>周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節</td><td>0</td><td>－2～+2※1</td><td>○</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節</td><td>0</td><td>－2～+2※2</td><td>○</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>リヤサンシェードリバース連動機能</td><td>あり</td><td>なし</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">降車時運転席シート移動量調節</td><td rowspan="2">標準</td><td>OFF</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>少なめ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オート電動格納ミラーの作動</td><td rowspan="2">ドアの施錠・解錠</td><td>なし</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作</td></tr>
</table>

※1 －側：減光が遅くなる
＋側：減光が早くなる
※2 －側：もどりが遅くなる
＋側：もどりが早くなる

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式ドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合以下のように作動します。

・シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー&スタートが「しない」の場合、解錠ドアの選択はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー）」の設定に依存します。

●ムーンルーフの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」は、それぞれ、パワーウインドウの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」と併せて「あり」に設定しないと作動しません。ムーンルーフの連動開閉機能は、ムーンルーフのみ作動させない場合に設定を変更してください。

■車両側のスイッチで設定を行った場合

ナビゲーションシステム装着車で、ナビゲーション画面で設定できる項目を、車両側のスイッチで設定した場合、ナビゲーション画面の項目表示は、すぐに切り替わりません。
いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから、再度“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると画面表示が切り替わります。

■ナビゲーション画面でカスタマイズを行うときは

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズを行うときは

エンジンをかけた状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレーテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギアレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

り

る

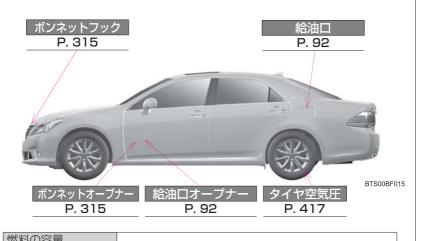
れ

わ

症状別さくいん

■警告灯一覧

表示	名称	参照
	ブレーキ警告灯	P. 365
	ABS& ブレーキアシスト警告灯	P. 366
PCS	PCS 警告灯（点滅）	P. 366
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 366
	エンジン警告灯	P. 366
	燃料残量警告灯	P. 368
AFS OFF	AFS OFF 表示灯（点滅）	P. 366
LKA	LKA 表示灯（点滅）	P. 366
	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 368
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	P. 368
	マスターウォーニング	P. 368
	パワーステアリング警告灯	P. 366
	充電警告灯	P. 365
	半ドア警告灯	P. 368
CRUISE	クルーズコントロール表示灯（点滅）	P. 366

警告メッセージが表示された → P. 370 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

● 警告灯が点灯、点滅している（→P. 365）

● 警告メッセージが表示されている（→P. 370）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 37
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部に触れたとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 153
	シフトダウンしたとき	P. 153
	ブレーキを踏んだとき	P. 142

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量
（参考値）</td><td>71L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td>無鉛プレミアムガソリン
(3GR-FSE/2GR-FSE エンジン車)
無鉛レギュラーガソリン
(4GR-FSE エンジン車)
P. 93, 412</td></tr>
<tr><td>タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>標準タイヤ
<table><tr><td></td><td>前輪</td><td>後輪</td></tr><tr><td>215/60R16 95H</td><td colspan="2">250（2.5）kPa (kg/cm²)</td></tr><tr><td>上記以外</td><td colspan="2">230（2.3）kPa (kg/cm²)</td></tr></table>応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm²)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
（参考値）</td><td>オイルのみ交換時
FR：5.9L
4WD：6.0 L
オイルとフィルター交換時
FR：6.3L
4WD：6.4 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td>トヨタ純正モーターオイル
・SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20)
・SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30)
・SM 10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30)
・SL 5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20)
・SL 10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ク-27

M　30C00
01999ー30C00
CB-2010年２月１日
2010年２月８日　初版
クラウン